「観光」をテーマとしたRESAS利活用事例

~「観光都市」を目指す北九州市の取組より~

目次

※RESASによるデータ分析については、 2016年9月時点のものを利用しています。

Part1

RESASの活用を通じて 見えてくる北九州市の現状 と観光への着眼

【RESASを用いた基幹産業の現状把握・振興の方向性導出アプローチを紹介】

• 基幹産業である製造業(一次金属等)に加え、域外大手企業の動向に左右されず地域 発意で強化しうる新たな産業の柱として観光への期待が高まる

Part2

北九州市の観光における 取組の現状

【北九州市における観光産業の現状認識について紹介】

- ┃・ 産業遺産や門司港レトロ等、旧5市の歴史・文化を活かした観光に着目が集まっている
- 「北九州市ならではの地域資源の観光資源化」や、「エリア間における観光客周遊強化」といった課題を有している

Part3

北九州市におけるRESAS を活用した観光強化の取 組

【RESAS活用による来訪者動線の見える化・課題抽出/誘客方法のポイントを紹介】

- RESASデータと地域が個別に保有する情報を集め、つなぎ合わせることで来訪者動線を総体として把握(⇒どの地域でもできる取組)
- エリア間の来訪者数ギャップ、月別・時間帯別の来訪者数ギャップに着目し、施策導出
- 地域に内在する"当たり前"のイベント・行事に着目し、周遊を促す"売り物"にする

Part4

地域の事業者と一体となっ た取組に仕立てていくため のポイント

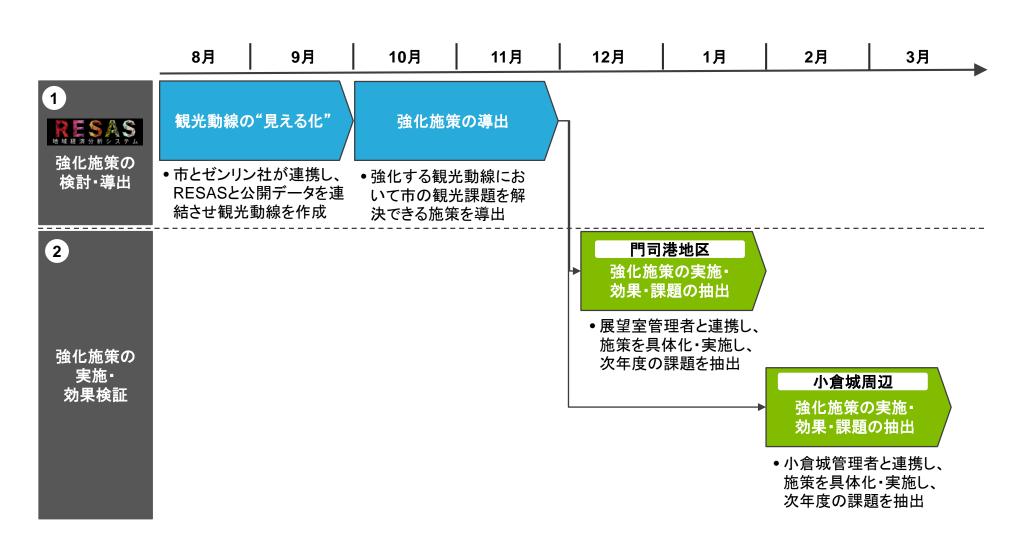
【自治体と地域事業者が一体となって改善に取組つづけていくポイントを紹介】

- 点在する情報をつないで見える化し、取組の目線を合わせていくことで、地域消費促進 を担う事業者を巻き込んでいく
- 地域が自力で拠出可能な策を検討・実施すると同時に、効果検証を内包した取組にすることで、PR方法・施策の継続的な改善につなげる

取組の全体像

強化施策を導出すべく、RESASと公開データを連結させて観光動線を"見える化"し、 観光地点の施設管理者と連携し、門司港地区と小倉城で強化施策を実施

北九州市における観光強化の取組のスケジュール



北九州市とゼンリン社が連携し、データ分析から強化施策検討・導出までを行い、 観光施設の管理者・観光協会も巻き込みながら施策を実施し、効果を測定

北九州市における観光強化の取組体制





地方自治体

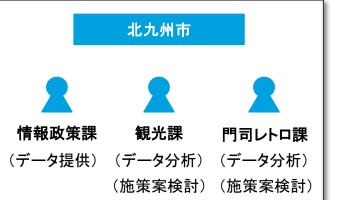


地元 民間事業者



RESAS 地域経済分析システム

強化施策の 検討・導出





ゼンリン社

ZENRIN



事業企画本部

(データ分析)

(施策案検討)

※RESASと市の提供データを連結させ、分析の土台となる観光動線を"見える化"



強化施策の 実施・ 効果検証



【妥当性検証儿施策具体似 施策具体化】



小倉城 門司展望室 まちづくり B&A 応援団 門司港

(施策具体化)

観光施設管理者

(効果検証データ提供)



ZENRIN



ゼンリン社

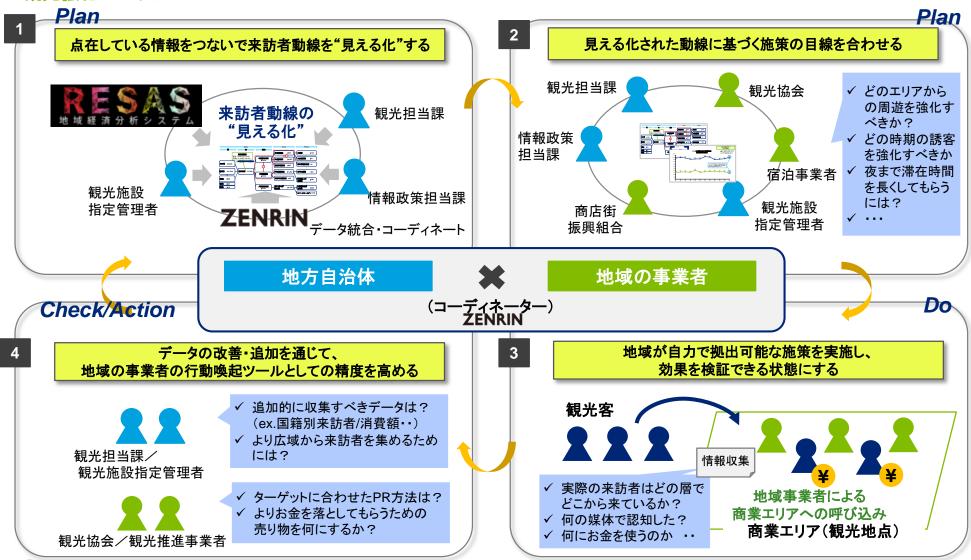
事業企画本部

(施策具体化)

(効果検証)

"見える化"による現状認識共有を起点とした協働のあり方に関する事例

観光強化のモデル



年間の来訪者数の把握を通じて、動線上の観光客の取りこぼしを"見える化"

"見える化"した観光動線 (千人) **Zone** Area **Place** 県 市 地区 小倉城周辺 小倉城 :936 :154 観光消費額 宿泊:16,991円(14.5%) 日帰り:4,163円(85.5%) 小倉都心地区 小倉城庭園 :61 小倉駅周辺 : 2,951 :5,659 ():来訪者数における構成比 山口県 :29,004 松本清張記念館:47 旦過市場周辺 :907 福岡県 :107,230 北九州市 : 27.903 門司港駅周辺 :1,202 旧門司税関 :254 門司港地区 :2,422 韓国: :853 和布刈公園周辺:498 ☑ 門司港レトロ :180 展望室 台湾: :221 八幡東田地区 香港: :131 :2.321

【観光動線の強化対象設定の考え方】

- エリア間のギャップが明らかであり、対象観光客数の取りこぼしが見られる動線を強化対象とする
- 北九州市が政策的に強化したい観光地点間における周遊・観光動線を強化対象とする

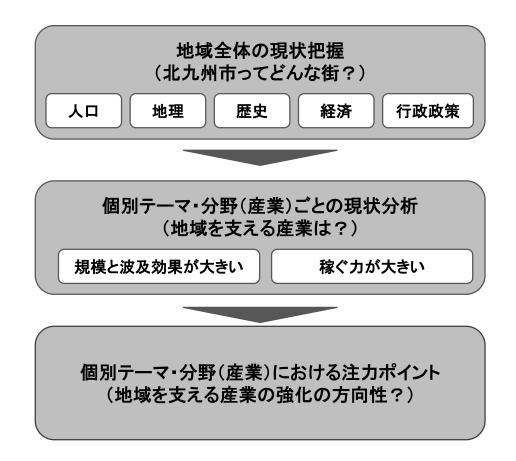
北九州市におけるRESASを活用した 観光強化の取組

北九州市におけるRESASを活用した観光強化の取組

RESASを活用を通じて見えてくる北九州市の現状と観光への着眼 Part1 Part2 北九州市の観光における取組の現状 北九州市におけるRESASを活用した観光強化の取組 Part3 Part4 地域の事業者と一体となった取組に仕立てていくためのポイント

地域の全体を把握した上で、RESASと外部公開情報から 個別テーマ・分野ごとの現状分析および注力ポイントを導出

現状把握方法



北九州市の現状と産業構造(基幹産業)の分析を通じて、新たな産業の柱となりうる「観光」を本取組のテーマとして位置づけ

現状把握の全体像

現状把握の方法

地域全体の現状把握 (北九州市ってどんな街?)

分析事項

■ 北九州市の現状を、「人口」「地理」「歴史」「経 済」「行政政策」の観点から把握する



現在の産業を形作った背景および人口動態の現状を把握する

分析結果

- 北九州市は、五市合併で政令都市として誕生し、 産業都市・九州の物流の要所として発展
- 20代の転出が激しく、高齢化・人口減少が進行
- 今後は「ものづくりのDNA」を活かし、環境・技術分野に注力するとともに、グローバルMICE 強化都市として観光にも注力していく方針

個別テーマ・分野(産業) ごとの現状分析 (地域を支える産業は?) ■ 北九州市の各産業の現状を「生産額・付加価値額・従業員数の規模」「波及効果」「稼ぐ力」の観点から把握する

各産業の規模・波及効果・稼ぐ力を比較し、 地域を支える基幹産業を把握する ■ 北九州市は製造業(特に「1次金属業」「窯業・ 土石製品製造業」)、「水運業」、「保健衛生業」、 「各種商品の小売業」が基幹産業である

基幹産業に主要産業「農林水産業」と「観光」追加してSWOT分析を実施

個別テーマ・分野(産業) における注力ポイント (地域を支える産業の 強化の方向性?) ■ 北九州市の基幹産業の強化の方向性をSWOT 分析から見出す



地域主体での基幹産業の振興による 仕事の創出可能性を分析し、必要に応じて 代替産業の振興可能性も検討する

- 基幹産業は、高付加価値化へのシフトという方 向性がすでに明確になっており、また大企業の 動向にも左右される
- ■「観光」はグローバルMICE都市や世界遺産登録など"追い風"が強く、地方が主体で取り組める新たな産業の柱になる可能性があるため、本取組のテーマとして選定

地域全体の現状把握

地域全体の現状把握 (北九州市ってどんな街?) 人口 地理 歴史 経済 行政政策 個別テーマ・分野(産業)ごとの現状分析 (地域を支える産業は?)

> 個別テーマ・分野(産業)における注力ポイント (地域を支える産業の強化の方向性?)

稼べ力が大きい

規模と波及効果が大きい

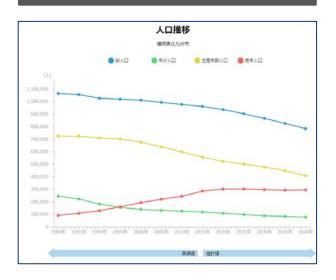
【人口·地域経済】

合計特殊出生率は改善しているものの、自然減・社会減により人口減少が進行

人口の現状把握

RESAS 人口マップ

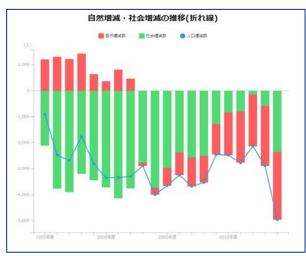
人口推移



• 総人口は減少傾向

老年人口は増加傾向である一方、 生産年齢人口は減少傾向

自然増減・社会増減の推移



• 2002年以降、社会減自然減が続いている

合計特殊出生率と人口推移



合計特殊出生率は2005年1.37⇒2010 年1.5に改善している

【人口·地域経済】

福岡市や東京都への20代の転出超過傾向が続いている

人口の現状把握

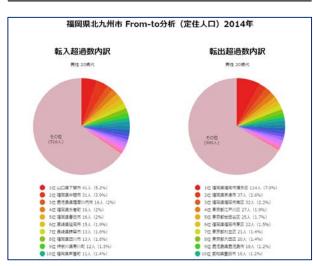
RESAS 人口マップ

年齢階級別純移動数の推移



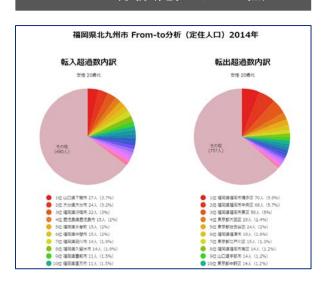
• 20代の転出超過傾向が続いている

From-to分析(定住人口·男性)



• 2014年度の20歳代男性の転出先で 人数が多いのは福岡市や東京都である

From-to分析(定住人口·女性)



2014年度の20歳代女性の転出先で 人数が多いのは福岡市や東京都である

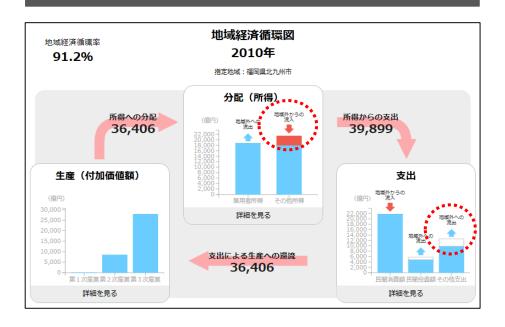
【人口·地域経済】

分配面で資金が流入しているが、支出面で域外に流出し、経済成長も鈍化

地域経済の現状把握

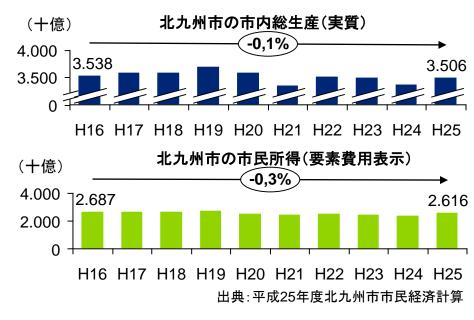
RESAS 地域経済循環マップ

地域経済循環図



• 分配面で資金が流入しているが、支出面で域外に流出

市民経済計算



• 市内総生産・市民所得はともに微減しており、経済成長が鈍化

【地理】

5市が対等合併により誕生した政令指定都市であり、九州の物流の主要な拠点

地理の現状把握

都市計画マスタープラン

市の成り立ち

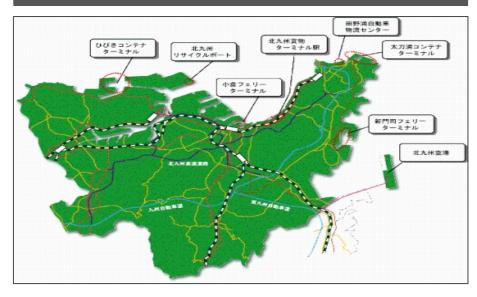


出典:北九州市都市計画マスタープラン全体構想(要約版)

- 1963 年(昭和 38 年)に、隣り合う門司、小倉、若松、八幡、戸畑の五市の対等合併を経て政令指定都市として誕生
- 旧五市の鉄道駅を中心に市街地が発展し、それらが鉄道沿い に細長く連坦して都市軸が形成された特異な市

北九州市ホームページ

交通網



出典:北九州市ホームページ

• 鉄道は新幹線、在来線が通っており、海路は門司港、陸路は本 州からの九州の入り口であり、九州の物流の主要な拠点

【歴史·行政政策】

「産業都市」として発展し、今後は、市として環境・技術に注力していくことを標榜

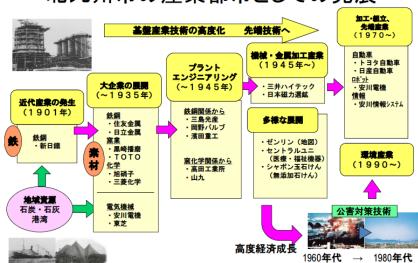
歴史・行政政策の現状把握

北九州市の製造業

いけり私に木

歴史

北九州市の産業都市としての発展



出典:北九州市都市計画マスタープラン全体構想(要約版)

• 「鉄鋼業」「窯業」「化学」における大企業の事業展開を通じて 「産業都市」として発展

「元気発信!北九州」プラン

行政政策



出典:北九州市都市計画マスタープラン全体構想(要約版)

• 産業分野で世界の環境首都・アジアの技術首都になることを 市の方針として標榜

【歴史·行政政策】

グローバルMICE強化都市選定を受け、「国際MICE都市」の確立に向けて本格始動

行政政策の現状把握

北九州市ホームページ

行政政策

平成27年6月30日

観光庁「グローバルMICE強化都市」 北九州市 選定!

観光庁において新たに募集した「グローバルMICE強化都市」に15自治体が応募し、審査の結果、北九州市が選定されました。(本市のほか4自治体が選定)

「グローバルMICE強化都市」事業は、「2030年には、アジア NO.1 の国際会議開催国としての不動の地位を築く」という政府目標を実現するため、観光庁が海外競合都市との誘致競争に打ち勝てるポテンシャルのある都市を選定して集中的に支援し、グローバルレベルの競争力を有する都市を育成することを目的としています。このたびの「グローバルMICE強化都市」選定を契機に、引き続き観光庁と連携しながら、北九州市のMICE誘致・開催に関する取組を加速させ、「国際MICE都市 北九州」の確立を目指していきます。

出典:北九州市ホームページ

• 北九州市は、平成27年6月30日にグローバルMICE強化都市として選定され、「国際MICE都市」を市として標榜

西日本産業貿易コンベンション協会ホームページ

行政政策

Kitakyushu, Japan TRANSformative Meetings

「北九州市の経験が変革を起こす」

- 北九州市は、官営の製鉄所が国内で初めて立地し、日本の高度成長を支えた都市です。その後の産業構造 の転換に歩を併せ高付加価値型の新産業にシフトし、今なお「ものづくりのDNA」を受け継ぐ都市です。
- 産業都市として繁栄を極めた時期に公害問題を抱えましたが、市民、企業、行政が連携して公害克服に取り組み、現在ではその経験を世界と共有し、世界の環境問題解決に貢献しています。
- 「産業都市」でありながら「環境都市」となった北九州市は、世界でも類を見ない変容を遂げ、今、 MICE開催地として、北九州市の経験を通じてインスピレーションやサステイナブルなアイディアを提供 しています。

出典:西日本産業貿易コンベンション協会ホームページ

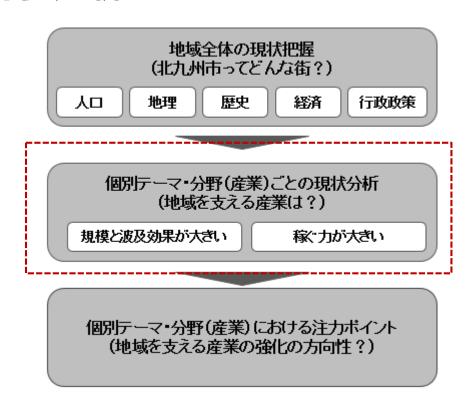
 北九州市は、西日本産業貿易コンベンション協会、地元関係者、 行政の12団体で「北九州市グローバルMICE推進協議会」を組成し、MICE誘致活動を行う中、平成29年2月にMICEブランドを発表し、MICE誘致の理念や目標を設定することで本格始動

五市合併で政令都市として誕生し、産業都市として発展した街であり、 - 現状地 高齢化・人口減少が進む中、今後は環境・技術分野に注力したまちづくりを推進

地域全体の現状把握の全体像

		問い	特性
定量	人口•地域経済	産業の担い手はいるか?地域のお金の流出入は?経済成長の現状は?	■ 20代が都市圏に転出し、産業の担い手が減少
定性	地理	市街地構成は?温暖か?寒冷か?主要な交通網は?	 ■ 昭和38年世界発の「五市合併」により誕生し、政令指定都市に認定 ▶ 旧五市の鉄道駅を中心に市街地が発展し、それらが鉄道沿いに細長く連坦して都市軸が形成されている ■ 瀬戸内海と日本海に面しており、比較的温暖な気候 ■ 鉄道は新幹線、在来線が通っており、海路は門司港、陸路は本州からの九州の入り口であり、九州の物流の主要な拠点
	歴史	• 市の成り立ちは?	■ 北九州市は、「鉄鋼業」「窯業」「化学」における大企業の事業展開を通じて「産業都市」として発展
	行政政策	• 行政政策として注力して いるものは何か?	■ ものづくり産業を高付加価値化しながら、環境・エネルギー分野の進化に注力していくことを市の基本方針として標榜 ■ グローバルMICE強化都市に応募・選定され、「国際MICE都市」を標榜

個別テーマ・分野ごとの現状分析



【地域経済の全体像把握】

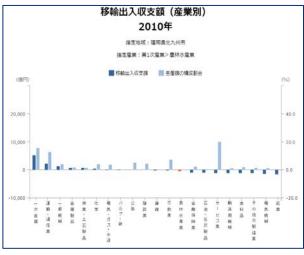
「一次金属」が影響力係数、感応度係数共に高く、地域への波及が大きい産業

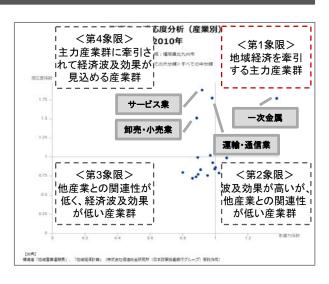
地域経済の全体像把握(地域経済循環マップ/生産分析)

RESAS 地域経済循環マップ

生産分析







- ・ 移輸出入収支額が多いのは2次産業
- 2次産業のうち、移輸出入収支額が多いのは一次金属
- 「一次金属」は影響力係数、感応度係数 共に高い
- •「サービス業」、「運輸・通信業」、「卸売・ 小売業」は感応度数が高い

売上、付加価値額、従業者数とも「卸売・小売」、「製造」、「医療、福祉」の割合が高い

地域の産業構造の把握(産業構造マップ/全産業の構造)

RESAS 産業構造マップ

全産業の構造

【売上高(2012年)】

【従業者数(2014年)】

【付加価値額(2012年)】





2012年 付加価値額(企業単位) 大分類 福岡県北九州市 付加価値額(企業単位): 1,365,171百万円 医療、福祉 卸売業、小売業 運輸業,郵便業 製造業 サービス業(他に分類されな ス章

- 売上高では、「卸売業、小売業」、「製造 業」、「建設業」が占める割合が多い
- 従業者数では、「卸売業、小売業」、「医療、 付加価値額では、「卸売業、小売業」、「製 福祉」、「製造業」が占める割合が多い
 - 造業」、「医療、福祉」が占める割合が多い

中分類では、売上は「卸売・小売」、従業者数は「医療・福祉」「飲食店」、付加価値額 は「医療福祉」、「窯業・土石製品製造業」の割合が高い

地域の産業構造の把握(産業構造マップ/全産業の構造)

RESAS 産業構造マップ

全産業の構造

【売上高(2012年)】

【従業者数(2014年)】

2012年 付加価値額(企業単位) 中分類



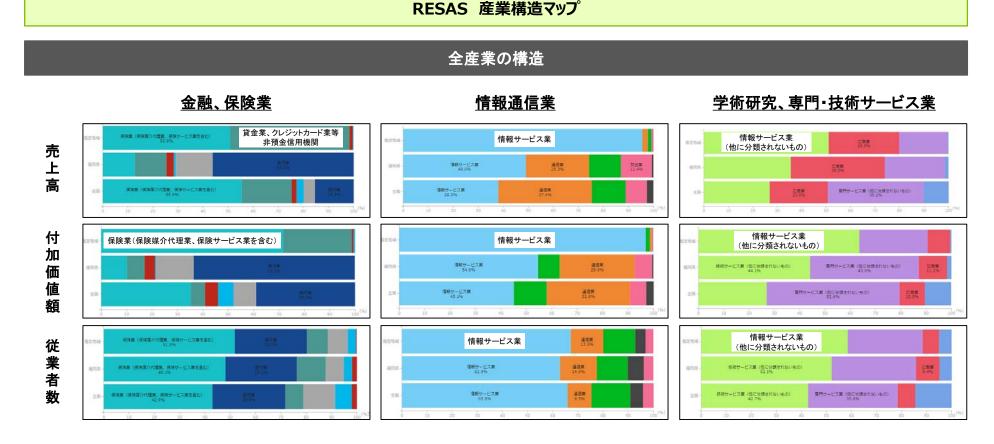


- 【付加価値額(2012年)】
- 星岡原北九州市 連輪に附帯す 援業 医療業 建設準>設備工事業 棄>道路貨物 運送棄 その他小売業 上回以外の村加価値額(企業単位)の合質:395,085百万

- 売上高では、「建築材料、鉱物・金属材料 等卸売業」、「窯業·土石製品製造業」、 「その他小売業」が占める割合が多い
- 従業者数では、「医療業」、「飲食店」、「社 会保険・社会福祉・介護事業」が占める割 合が多い
- 付加価値額では、「医療業」、「窯業・土石 製品製造業」、「その他小売業」が占める 割合が多い

「金融・保険」「情報通信」「学術研究・専門サービス」では、全国に比べ構成比が高い

地域の産業構造の把握(産業構造マップ/全産業の構造)



「金融、保険業」、「情報通信業」、「学術研究、専門・技術サービス業」といった産業で、構成比が県内平均、全国平均と比較して高くなっている

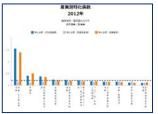
「窯業、土石製品製造業」および「鉄鋼業」の付加価値、従業者数の特化係数が高い

地域の産業構造の把握(産業構造マップ/稼ぐ力分析)

RESAS 産業構造マップ

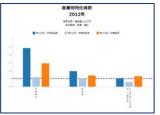
稼ぐ力分析

製造業



製造業では、「窯業・土石製品製造業」と「鉄鋼業」の付加価値、従業者数の特化係数が高い

医療福祉



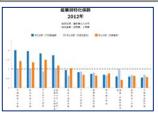
医療福祉では、 「保健衛生」の特化 係数が高い

飲食、宿泊業



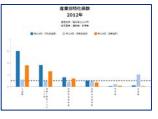
「宿泊業」の労働生産性が1.0を超えている

卸売業、小売業



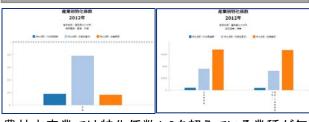
卸売業、小売業では、「その他小売」、「各種商品小売」、「飲食料品小売」、「健築材料、鉱物・金属材料等卸売業」が各特化係数が高い

運輸業、郵便業



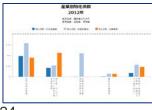
付加価値額、従業者数の観点では「水運業」と「運輸に付帯するサービス業」の特化係数が高く、労働生産性の観点では、「倉庫業」の特化係数が高い

農林水産業



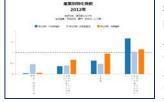
農林水産業では特化係数1.0を超えている業種が無い

金融、保険業



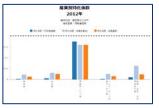
金融、保険業では特化係数が1.0を超えている業種がない

学術研究、専門・技術サービス業



学術研究、専門・技術サービス業では、「技術サービス業では、「技術サービス(他に分類されないもの)」が付加価値額、労働生産性、従業者数いずれについても特化係数が1.0を超えている

情報通信業



情報通信業では特化係数 が1.0を超えている業種は ない

「窯業、土石製品製造業」および「鉄鋼業」の付加価値、従業者数の特化係数が高い

地域の産業構造の把握 – 地域の産業構造を把握する

RESAS 産業構造マップ

稼ぐ力分析

豆八1	ᅜᄼ	特化係数			性ルグ粉に即士て八七姓田	
区分1	区分2	付加価値額	労働生産性	従業者数	特化係数に関する分析結果	
生11 7件 平	窯業、土石製品製造業	7.80	0.81	6.98	「窯業、土石製品製造業」および「鉄鋼業」の付加価値額、従業者数の特化係数が高いが、いずれも労働生産性は1.0未満である	
製造業	鉄鋼業	2.01	0.57	2.54		
	その他小売業	1.84	0.89	1.49		
	各種商品小売業	2.00	1.01	1.43	左記の業種の付加価値額が高く、従業者数についても1.0を超えている。「その他小売業」以外は労働	
卸売業、小売業	飲食料品小売業	1.96	1.04	1.37		
	建築材料、鉱物・金属材料等卸売業	1.74	1.06	1.19	生産性も1.0を超えている	
医療福祉	保健衛生	4.84	1.20	2.93	「保健衛生」の付加価値額、従業者数が高い。労働生産性も1.0以上ある	
	水運業	6.03	1.21	3.61	「水運業」および「運輸に付帯するサービス業」の付加価値額、従業者数が高い。 労働生産性の面では「倉庫業」が高い。	
運輸業、郵便業	運輸に付帯するサービス業	3.66	1.01	2.62		
	倉庫業	0.24	2.07	0.08		
農林水産業	農業	0.18	0.78	0.17	農業、漁業に関する各種特化係数はいずれも1.0	
辰 个小性未	漁業(水産養殖業を除く)	0.00	0.04	0.08	未満である。	
飲食、宿泊業 宿泊業		0.57	1.23	0.33	「宿泊業」の労働生産性が1.0を超えている	
学術研究、専門・ 技術サービス業	技術サービス(他に分類されないもの)	1.67	1.04	1.16	「技術サービス(他に分類されないもの)」のみいずれの特化係数も1.0を超えている	

※「金融、保険業」および「情報通信業」については、特化係数が1.0を超えている業種がないため表示せず

特化係数 1.5以上 1.0以上 1.0未満

"地域に与えるインパクト"と"稼ぐ力の高さ"から注力する個別テーマ・分野を抽出

地域の産業構造把握全体像

地域の生産・ 付加価値・雇用 創出に与える インパクトが 大きな産業 構成比率(生産額・付加価値額・ 従業員数)が 高い産業

波及効果が大きい産業

結果

- サービス業、製造業、運輸・通信業、卸売・小売 業が注力ポイント
- ▶ サービス業では、特に医療・福祉業
- ▶ 製造業では、特に1次金属

■ 1次金属が圧倒的に影響力・感応度がともに高く、地域を牽引する産業として注力ポイント

他の地方自治体と比べ 稼ぐ力が高い産業

- 製造業、卸売・小売業、運輸、郵便業、医療・ 福祉業は他の自治体と比較して稼ぐ力がある
 - 製造業は、1次金属を含む鉄鋼業と窯業・土石製品製造業
- ▶ 卸売・小売業は、各種商品の小売業
- ▶ 運輸、郵便業は、水運業
- ▶ 医療・福祉業は、保健衛生業

注カテーマ・分野

1次金属業

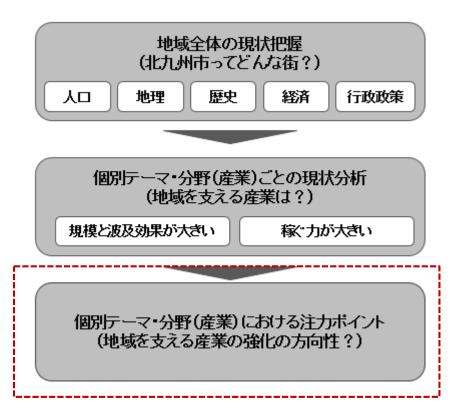
保健衛生業

窯業・土石製品製造業

水運業

各種商品の小売業

個別テーマ・分野(産業)における注力ポイント



【地域産業の現状把握(産業)】

製造業は、大企業の企業戦略による大規模工場撤退等の影響が大きいものと想定

地域産業の現状把握 製造業の現状(1次金属・窯業・土石製品製造業)

RESAS 産業構造マップ 製造業の構造

「製造業」常用従業者数の推移

▶ 製造業の常用従業者数は、鉄鋼業をはじめ減少傾向にあり、 雇用吸収力が減退している



- 1986年から2000年の間に「鉄鋼業」の従業者数が大きく減少している
- 2000年以降の製造業の従業者数は横ばいである

外部公開情報

原因仮説

為替等外部環境の 影響に伴う 大規模工場の撤退 【北九州市新成長戦略(平成28年3月改定)】

- 本市の製造品出荷額の全国シェアをみると、 平成21 年から23 年までは、0.74と横ばいで したが、平成24 年が0.69、平成25 年は0.68 となっている
- 自動車部品メーカーをはじめとする好調な 企業の立地がある一方で、大規模工場の撤 退などがあり、全国シェアが低下している
- 今後、地域製造業の競争力を高め、製造品 出荷額、付加価値額の増加を図ることが課 題となっている

【日本経済新聞(2011.11.30)記事等より】

- 円高の進行を受け、平成23年には東芝が 北九州工場を閉鎖
- 北九州の従業員約530人は、国内の他の生産拠点に配置転換

製造業の雇用吸収力は、大企業の企業戦略・拠点戦略によって大きく左右される

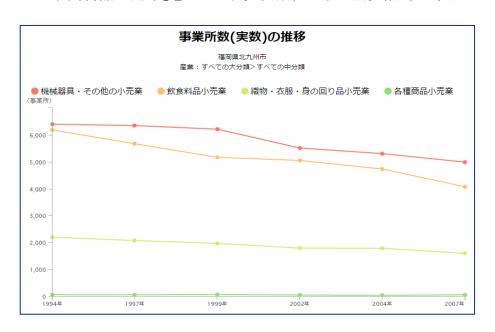
【地域産業の現状把握(産業)】 卸売業、小売業は商圏人口の減少により、雇用吸収力が減退していると想定

卸売・小売業の現状(各種商品小売業)

RESAS 産業構造マップ 商業の構造

「卸売業、小売業」事業所数の推移

▶ 卸売業、小売業については、「機械器具・その他の小売業」を、 「飲食料品小売業」をはじめ、事業所数は年々減少傾向にある



外部公開情報

RESAS 人口マップ 人口推移

原因仮説

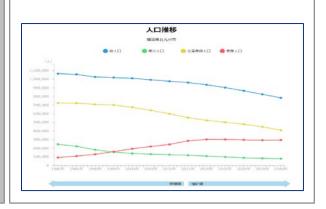
【北九州市新成長戦略(平成28年3月改定)】

本市では、<u>商圏人口の減少</u>とともに、小売業の事業所数従業者数、年間販売額は減少傾向が続いている

【RESAS 人口マップ】

• 北九州市の人口は年々減少傾向にある

商圏人口の減少



【地域産業の現状把握(産業)】 総商圏人口は減少するも、市外の居住者が市内に買い物にくる比率が上昇

(参考)卸売・小売業の現状(各種商品小売業)

外部公開情報

【北九州市有効商圏人口の推移】

- 総人口は減少しているものの、平成22年から平成27年にかけて有効商圏人口は増加している
- ▶ 有効商圏人口が増加に転じたのは、北九州市圏域の人口は減少しているものの、北九州市外の居住者の買物出向率(北九州市内のいずれかの商業地区に年1回以上の頻度で買物に出向く比率)が平成22年と比べて5.3ポイント上昇したことによるものである。



「 糸夫・商圏の完美レ有効商圏 ↓ □ 】

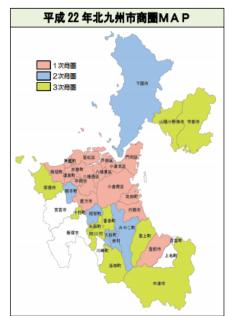
北九州市圏域の居住者に対する調査結果をもとに、市区町村ごとに、居住者が北九州市内のいずれかの商業地区に年1回以上の頻度で買物に出向く比率(買物出向率)を算出し、買物出向率に応じて以下の3区分で商圏ランクを設定した。なお、北九州市の各行政区は、北九州市全体の商圏としては1次商圏に分類した。

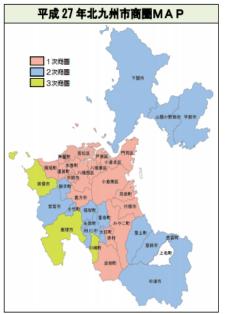
1 次商圏	買物出向率 70%以上の市区町村	
2次商圏	買物出向率 50%以上 70%未満の市区町村	
3次商圏	買物出向率 30%以上 50%未満の市区町村	

有効商圏人口は、北九州市圏域の市区町村ごとに、当該市区町村の人口に当該市区町村の買物 出向率を乗じて得た数値とした。

【北九州市商圏ランク】

平成22年と比べると、1次商圏は3市町村、2次商圏は10市町村、それぞれ増加しているほか、商圏のランク外から宮若市と吉富町が2次商圏、飯塚市と川崎町が3次商圏へランクアップするなど、15市町村で平成22年より高次の商圏にランクアップ





出典: 北九州市「平成27年度北九州市商圏調査」

【地域産業の現状把握(産業)】

国際水平分業の波に対応する中、他の主要港湾に比べて外国貿易の割合が低い

運輸・郵便業の現状(水運業)

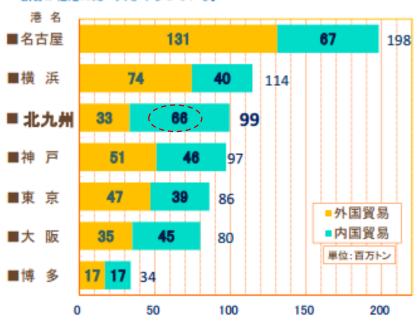
外部公開情報

北九州市の取扱貨物量(平成27年)

原因仮説

日本の主要7港の取扱貨物量

国内フェリー・RORO航路の一大拠点であることから、内国貿易の 割合が他港に比べ大きくなっている。



国際水平分業への対応

【北九州市物流拠点化戦略基本方針(H25年)】

- 北九州市の主要な貿易相手国である中国 や韓国、ASEAN 諸国との輸出入も増加傾 向となっており、今後もアジアを舞台にした 物流の拡大が期待されます。
- アジア諸国などに進出した日系メーカーなどと我が国との間における国際水平分業の進展などを背景として、我が国とアジア諸国との間において部品などのやりとりが増えています。
- 物流を取り巻く状況の変化や企業の物流 ニーズを踏まえ、本市は以下のような課題 に対応していく必要があります。
- ① 国際海上ネットワークの強化 国際水平分業の進展などに対応するため、 国際フェリー・国際 RORO 航路の開設

出典: 北九州市港湾空港局「平成27年北九州港の港湾統計」

【地域産業の現状把握(農林水産)】 農業は全産業の販売金額に占める割合は小さい

農林水産業の現状把握(1/4)

RESAS 産業構造マップ

農業の構造

【参考】全産業の構造



北九州市において、 農業が全産業に占 める割合が少ない ことが分かる



【地域産業の現状把握(農林水産)】

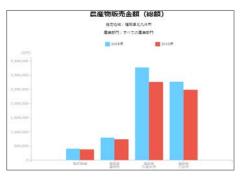
農産物販売金額は全国平均、福岡県平均よりも少なく、100万円未満の経営体の割合や農協以外へ出荷する経営体の割合が高い

農林水産業の現状把握(2/4)

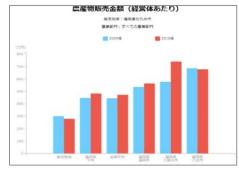
RESAS 産業構造マップ

出荷先別販売金額の構成

出荷先別販売金額の構成









- 2005年から2010年で農産物 販売金額は減少している
- 久留米市や八女市等の同県 他市に比べると農産物販売 金額は少ない
- 農産物販売金額が100万円 未満の経営体の割合が全国 平均、同県平均よりも高い
- 経営体あたりの農産物販売 金額は全国平均、同県平均 より少ない
- 農協に出荷する経営体の割合が全国平均、同県平均より も低い

【地域産業の現状把握(農林水産)】 耕作放棄地率は全国平均、福岡県平均よりも高い

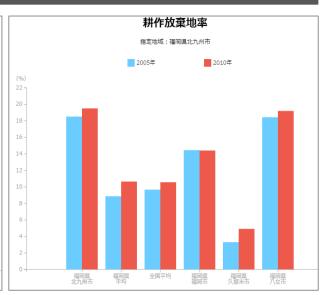
農林水産業の現状把握(3/4)

RESAS 産業構造マップ

農地分析

経営耕地面積 (総面積) 指定地域:福岡県北九州市 農地区分:すべての農地区分 2005年 2010年 (a) 900,000 800,000 700,000 600,000 400,000 100,000 100,000 100,000 100,000 100,000 -





- 経営耕地面積は同県他市よりも狭い
- 福岡県平均に比べて、農地の流動化が進んでいない

福開

福岡県平均

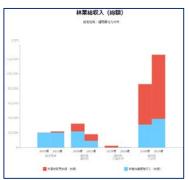
耕作放棄地率は増加しており、同県平均、 全国平均よりも割合が高い

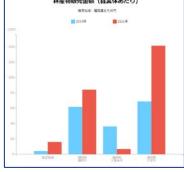
【地域産業の現状把握(農林水産)】 林業総収入は林業作業請負収入の割合が高い 林産物販売金額は100万円未満の経営体の割合が全国・福岡県平均よりも高い

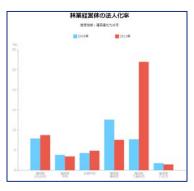
農林水産業の現状把握(4/4)

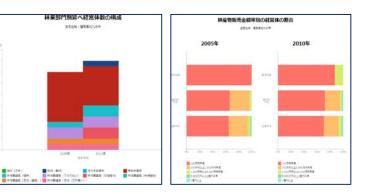
RESAS 産業構造マップ

林業総収入





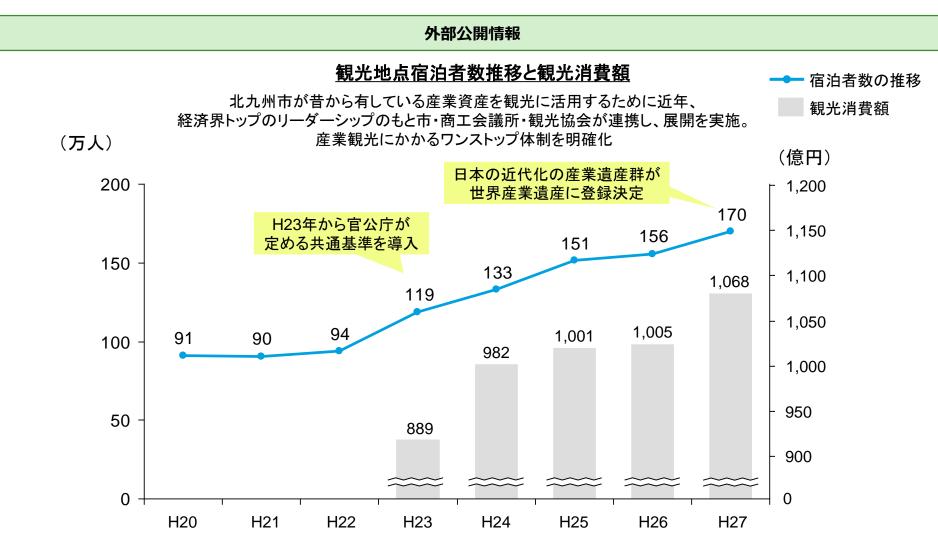




- 林業総収入は2005年 から2010年で微増。 割合は林業作業請負 収入の割合が高い
- 経営体あたりの林産 物販売金額は2005年 から2010年で大幅に 増えている(4万円から 16万円に増加)
- 林業経営体の法人化率は同県平均、全国平均よりも高い
- 経営体数が多いのは 特用林産物を扱う経 営体である
- 林産物販売金額が 100万円未満の経営 体の割合が同県平均、 全国平均よりも高い

【地域産業の現状把握(農林水産) 】 産業資産を観光資源として活用することにより宿泊客数・観光消費額が増加傾向

観光の現状把握 北九州市の宿泊客数・観光消費額の推移

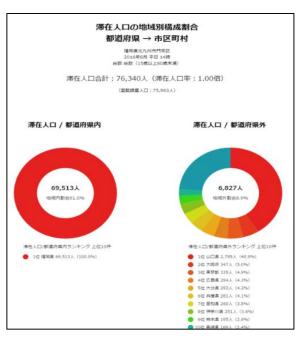


【地域産業の現状把握(観光)】 門司区においては、山口県、大分県、大阪などの都道府県から訪問する人数が多い

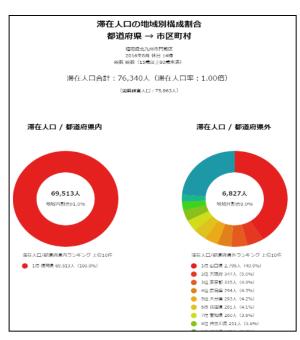
観光の現状把握 滞在人口分析(門司区)

RESAS まちづくりマップ

From-to分析(滞在人口)



平日は山口県、大分県、大阪府、広島県の順で、北九州市門司区を訪れる人が多い。



休日は山口県、大分県、広島県、大阪府の順で、北九州市門司区を訪れる人が多い。

※From-to分析(滞在人口)メニューでは、市区町村の最小単位(たとえば区が存在する場合は区)、表示年/月別、平日/休日別、時間帯別に表示 ※上記画面は2016年8月単月の福岡県北九州市門司区に関するデータ。コメントは1月から12月のデータを集計・分析した結果に基づき記載

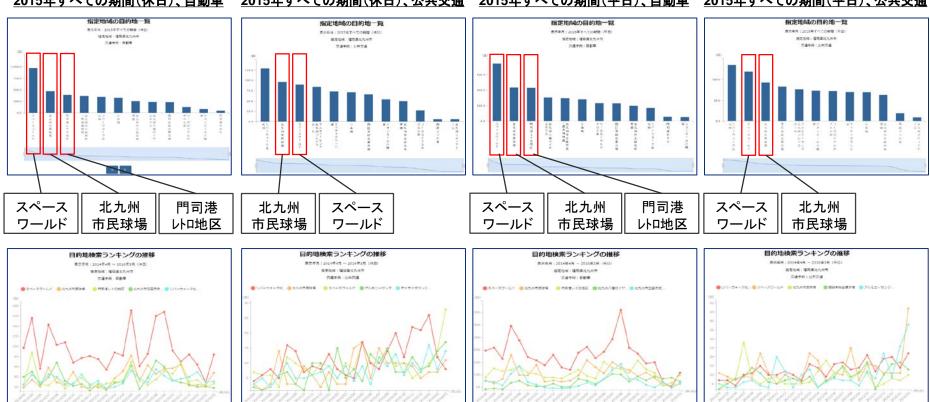
【地域産業の現状把握(観光)】 スペースワールド、北九州市民球場、門司港レトロ地区が目的地検索で上位である

観光の現状把握 目的地分析

RESAS 観光マップ

目的地分析

2015年すべての期間(休日)、自動車 2015年すべての期間(休日)、公共交通 2015年すべての期間(平日)、自動車 2015年すべての期間(平日)、公共交通



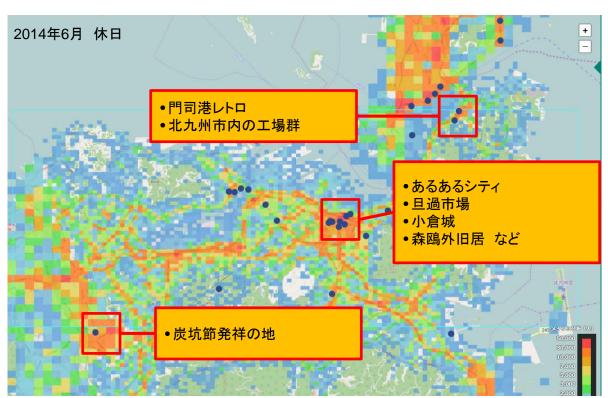
【地域産業の現状把握(観光)】

人が集まっているエリアには、門司港レトロや小倉城といった集客施設が存在

観光の現状把握 流動人口メッシュ

RESAS まちづくりマップ

流動人口メッシュ



出典: 株式会社Agoop「流動人口データ」

中小企業庁「地域資源情報」

【地域産業の現状把握(全体像)】

従来の主力産業の方向性が見いだされる中、新たな産業の柱として観光に着目

産業に関する特徴全体像および注力テーマ

		強み(S)	弱み(W)	機会(O)	脅威(T)	産業強化の 方向性
	1次 金属業	■ 新日鉄住金など大企業の 生産拠点が立地			■ 生産拠点のグローバル化 により国内工場が撤退	付加価値高い産業へのシフト
	保健 衛生業	■ 政令指定都市としての最 低限必要なインフラの充実	■ 今後進行する高齢化率へ の対応(必要施設が分散)	■ (総人口が減少する一方)政令市の中でも高い高齢化水準	■ 総人口の減少	高水準な 高齢化率への 着実な対応
産業	窯業・ 土石製品 製造業	■ TOTOなど大企業の生産 拠点が立地			■ 生産拠点のグローバル化 により国内工場が撤退	付加価値高い産業へのシフト
	水運業	■ 充実した物流基盤 ■ アジアとの近接性	■ 外国貿易の割合が全国より低い	■ 企業の海外移転やアジア とのモノのやりとりの活発 化		アジアの 物流拠点化
	各種商品 の小売業	■ 近隣市町からの来街者が 多い			■ 総商圏人口の減少	域外来街者の 取り込み
	農林 水産業		■ 有望な資源(農地・漁場) が乏しく、雇用吸収力が弱 い	■ 海外への輸出拡大	■ 九州他県・他市との農林水 産物の競争激化	付加価値高い 産物生産・販売
	観光取組テーマ	■ 産業遺産(観光資源)保有 ■ 従業員数が多い	■ 観光客が取り込みきれて いない	■ 休日滞在人口増加 ■ 産業遺産の世界遺産登 録・MICE強化都市		集客力の 向上

製造業は大企業の企業戦略によって左右されるため、地方自治体の 主体的な取組には限界があるが、観光は北九州市への

追い風が強く、新たな産業の柱になる可能性がある

観光は、どの地方自治体でも強化が可能な 地方創生のテーマとして**横展開可能性が高い**

RESAS分析や市の政策・動態調査より、新たな産業の柱として観光に着目

注カテーマとしての観光への着眼

RESASによる分析

- ✓ 主力産業として製造業の強みはあるものの、大企業の企業戦略によって左右されるため、地方自治体の主体的な取組には限界
- ✓ 外貨を稼ぐ産業として「小売」では 商圏人口の減少と福岡市というラ イバルが存在する環境下、新たな 産業の柱が必要

観光動態における現状および ポテンシャル

✓ 産業遺産群の世界遺産登録等も 背景に、宿泊客数・観光消費額は 年々増加傾向にある (北九州市観光動態調査より)

市の重点政策

✓ 現状まだ観光地としての認知度が 低い問題意識がある中、観光都市 を目指す政策としての観光振興プ ランが策定され、今後の伸びしろ が期待されている

北九州市にける新たな産業の柱となる可能性として「観光」に着目 (横の自治体への横展開も視野)

北九州市におけるRESASを活用した観光強化の取組

Part1 RESASの活用を通じて見えてくる北九州市の現状と観光への着眼

Part2 北九州市の観光における取組の現状

Part3 北九州市におけるRESASを活用した観光強化の取組

地域の事業者と一体となった取組に仕立てていくためのポイント

Part4

北九州市は旧5市の歴史と文化を活かした観光テーマづくりをする観光都市を目指す

外部公開情報

北九州市の観光振興のコンセプトと主な観光資源



コンセプト 産業観光や近代化産業遺産、環境観光、サブカルチャーなど、 歴史と文化のある 5 つの伝統を活かした観光テーマづくり

■ 旧五市ごとに独自の観光資源を有している



北九州市ならではの地域資源を観光資源化し、受入体制・誘致活動を 強化しながら、北九州市のブランディングを確立する取組を推進

観光都市の実現に向けた主な取組

外部公開情報

1 北九州市=観光都市としてのブランディング

- 市内にある魅力的な地域資源を活かせるように市民 に知ってもらい、その魅力を発信できる方法を検討
- キャッチコピーやロゴなどの制作について、プロデュー スできる専門家を活用

の充実

4

MICE誘致戦略の推進

おもてなしの充実

■ 観光協会や行政、商工会議所などと連携を強化、各

部署が事務所を移し、一体となって観光振興を推進 ■ 観光案内所での案内機能や主要駅からの案内看板

■ 旧官営八幡製鐵所をはじめとする「近代化遺産群」の 活用や、「産業観光」「環境観光」のさらなる磨き上げ

2 北九州市ならではの地域資源の観光資源化

- ■門司レトロや小倉城など、本市を代表する観光地の 魅力向上に注力
- ■「サブカルチャー」の活用や「夜型観光の充実」

- 5
- 行政全体で情報発信を行うための「MICE推進本部」 を設置し、イベントやコンベンションの誘致に注力
- MICE分野での人材育成を実施
- アフターコンベンションやユニークベニューの検討

3 セールスプロモーション戦略の推進

- Facebookを活用した情報発信
- 福岡市へのプロモーション強化
- 観光情報や画像などのデータベース化

6 インバウンド戦略の取組強化

- ■「産業観光」や「環境観光」「サブカルチャー」など、本 市ならではのパッケージ商品開発およびPR強化
- クルーズ客船や航空機便、チャーター便など誘致の 検討

北九州市の現状の課題感から、エリア間の観光客数増加を目指すことを目的に設定

今回の観光強化の取組の目的

外部公開情報

北九州市の観光の現状(観光振興プランから抜粋)

市内で周遊がされていない

GPS調査からエリア間の 周遊がされていないことが判明

エリア間の観光客数の増加

観光資源に対する認識のズレがある

地域(市内)が考える観光資源と 消費者(市外)が考える観光資源に ギャップが存在

> "当たり前"の地域資源を 観光資源化

観光地としての認知度が低い

門司や関門の認知度は高いが、 それが北九州市にあると あまり知られていない

北九州市の観光地としての 発信を強化

RESASを活用した観光強化の取組の目的

北九州市にある地域ならではの資源を観光資源としてPRし、エリア間の観光客数を増加させる



北九州市 観光課

- そもそも北九州市が観光地として認識されていない。
- 九州の近隣エリアには、一級観光資源がいくつかある。その中で北九州市に立ち止まってもらうためには、観光の核をつくりながら、二級・三級の観光資源をつなぎあわせて周遊してもらう必要がある。

出典:北九州市「北九州市観光振興プラン~「北九州市に観光にいこう!」と言われる観光都市を目指して~」(平成26年5月)

北九州市内では来訪者の回遊性が低く、観光資源に対して市内在住者が推薦するものと市外在住者が興味を持つものが異なることが課題

(参考)北九州市観光振興プランの調査結果(抜粋)

外部公開情報

GPS調査

調査概要

■ 市内に60分以上滞在している方に対して携帯 電話のオートGPSで自動的に取られる位置情 報データを用い市内での業同ルートや滞在時 間等の行動実態を把握した

サンプル数

■ 3,000サンプル ※ビジネス客と考えられる来訪者は極力除外

結果

■ 1地域のみの来訪者が83%と多く、エリア間の 周遊はほとんどされていない (地域別の訪問者は小倉北区・戸畑区が多い)

エリア別来訪者数割合図 (1地域のみの来訪者:83%)



エリア別周遊者数割合図 (複数地域来訪者:14%)



a.門司区/b.小倉北区·戸畑区/c.小倉南区/d.若松区/e.八幡西区·東区

GAP調査

調査概要

■ 北九州市在住者と北九州市出身者で市外在住者に対してワーキンググループで選定された市内の54個の観光資源に対して「認知度」「興味度」「推薦度」を調査

サンプル数

■ 1,000サンプル ※本市在住者および本市出身者で市外在住者 各500サンプル

結果

■ 興味のある観光資源と推薦したい観光資源に はギャップがあり、ニーズに即した観光誘客が 出来ていない可能性がある

	GAP調査結果			地域力診断 推薦度	
1位	関門ふぐ	37.1%	1位	70.5%	
2位	関門海峡花火大会	33.0%	4位	55.1%	
3位	小倉牛	31.9%	28位	25.1%	
4位	門司港レトロ	31.7%	2位	69.3%	
5位	豊前海一粒かき・カニ	30.9%	21位	31.6%	
6位	関門海峡	28.3%	3位	66.6%	
7位	焼きカレー	26.5%	19位	34.6%	
8位	豊前本ガニ	26.0%	39位	18.7%	
9位	皿倉山	25.1%	9位	43.8%	
10位	1h	24.9%	33位	20.6%	

興味度 推薦度調査

「小倉牛」を例に見ると、 市外在住者は興味がある観光資源として3位。 市内在住・出身者は推 薦したい観光素材として 28位。観光資源に対する認識に大きなギャップ があることが分かる。

北九州市におけるRESASを活用した観光強化の取組

Part1 RESASを活用を通じて見えてくる北九州市の現状と観光への着眼
Part2 北九州市の観光における取組の現状

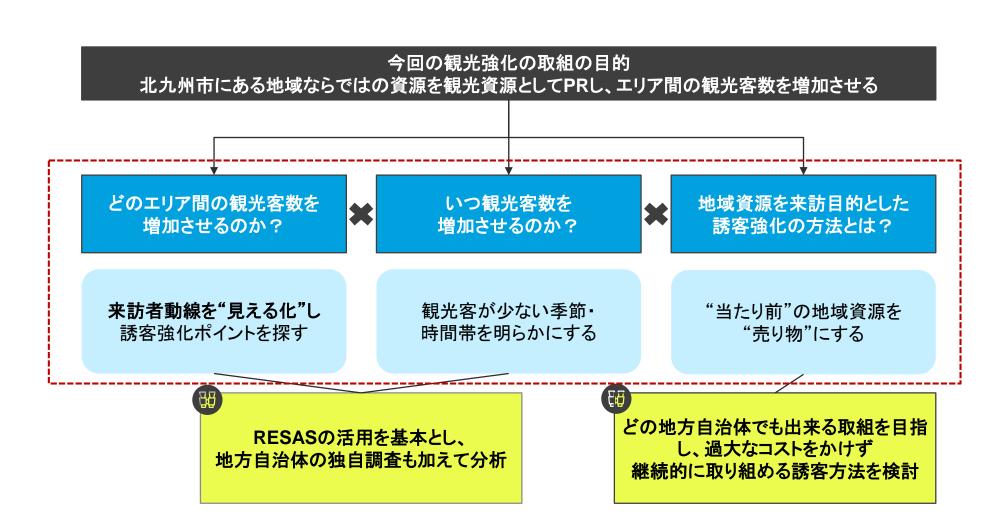
Part3 北九州市におけるRESASを活用した観光強化の取組

地域の事業者と一体となった取組に仕立てていくためのポイント

Part4

RESASを活用し、観光客の行動経路と来訪時期を"見える化"し、誘客方法を具体化

今回の観光強化の取組内容



観光強化の取組

どのエリア間の観光客数を 増加させるのか?

来訪者動線を"見える化"し 誘客強化ポイントを探す

いつ観光客数を増加させるのか?

観光客が少ない季節・時間帯を明らかにする

地域資源を来訪目的とした 誘客強化の方法とは?

"当たり前"の地域資源を "売り物"にする

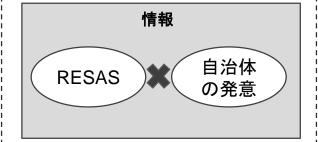
観光客の行動経路と各地点の観光客数を共通の"見える化"フォーマットに集約

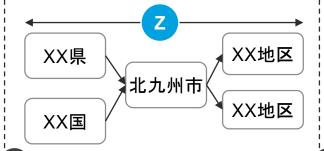
来訪者動線の"見える化"方法

行動経路の定義

- ZONE(県⇒市⇒地区) 例:北九州に行ってみよう。
- TRANSPORTATION (交通手段) 例:飛行機・電車でいこう。
- A AREA(観光エリア) 例:小倉城周辺にいこう。
- PLACE(観光施設) 例:小倉城にいこう。
- 来訪者動線を把握したい対象範囲を 広域エリアから詳細エリア・地点まで スコープを変えながら把握

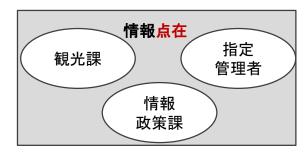
行動経路となる 観光地点の明確化

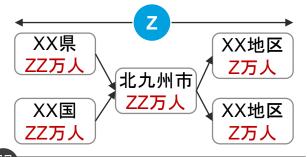




RESASから見える観光地点と 関係者が実感値として把握している 観光地を照らし合わせ地点を明確化

各観光地点の 観光客数の情報を集約

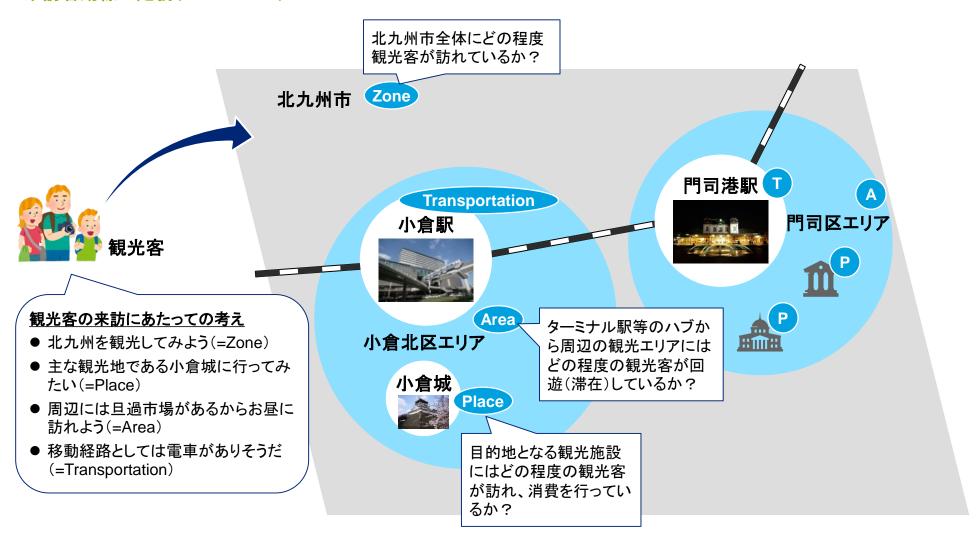




RESASの情報と地域が個別に 保有する情報を集め、 行動経路上でつなぎ合わせる

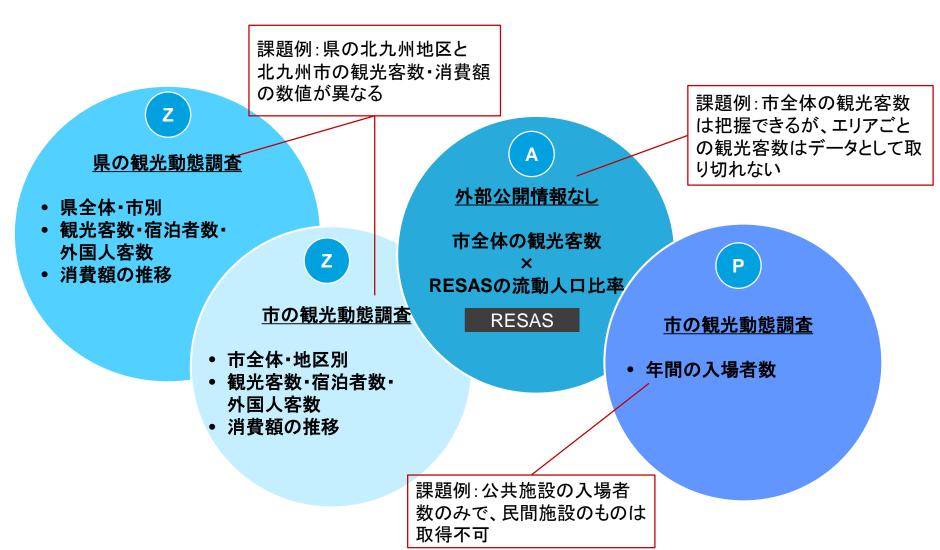
観光客の基本的な行動経路を概念として構造化

来訪者動線の定義("Z·T·A·P")



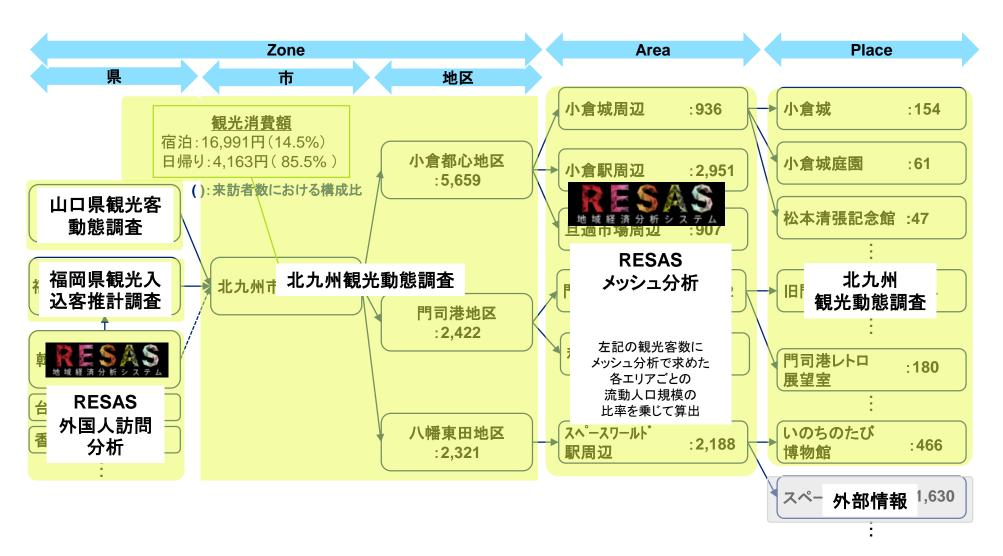
県・市の観光客数は複数のソースに点在し、エリアの観光客数はソースがないため、 RESASを活用して推計

点在する観光客数のデータ



自治体が公開する観光入込客数とRESASのメッシュ分析を組み合わせ動線を作成

来訪者動線の情報ソース



年間の来訪者数の把握を通じて、動線上の観光客の取りこぼしを"見える化"

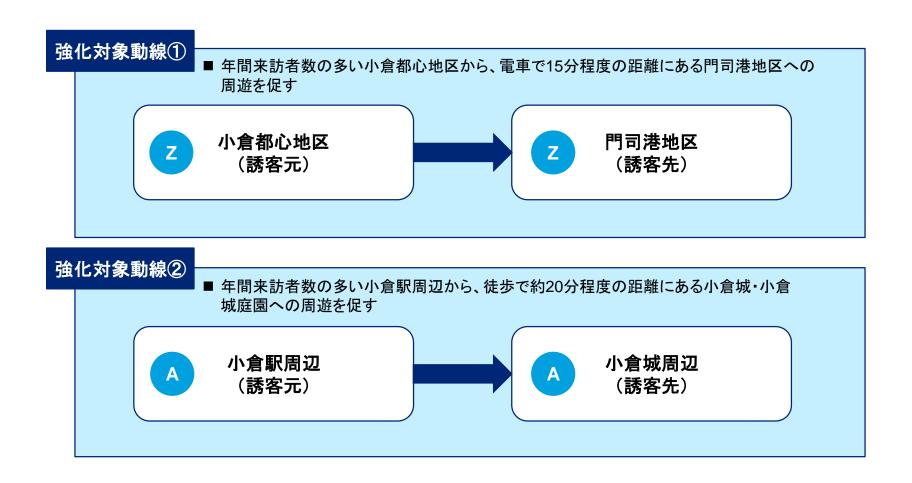
"見える化"した観光動線 (千人) **Zone** Area **Place** 県 市 地区 小倉城周辺 小倉城 :936 :154 観光消費額 宿泊:16,991円(14.5%) 日帰り:4,163円(85.5%) 小倉都心地区 小倉城庭園 :61 小倉駅周辺 : 2,951 :5,659 ():来訪者数における構成比 山口県 :29,004 松本清張記念館:47 旦過市場周辺 :907 福岡県 :107,230 北九州市 :27,903 門司港駅周辺 :1,202 旧門司税関 :254 門司港地区 :2,422 韓国: :853 和布刈公園周辺:498 ☑ 門司港レトロ :180 展望室 台湾: :221 八幡東田地区 香港: :131 :2.321

【観光動線の強化対象設定の考え方】

- エリア間のギャップが明らかであり、対象観光客数の取りこぼしが見られる動線を強化対象とする
- 北九州市が政策的に強化したい観光地点間における周遊・観光動線を強化対象とする

"小倉都心地区⇒門司港地区""小倉駅周辺⇒小倉城周辺"の動線を対象に設定

強化対象動線(観光客数を増加させるエリア)の設定



観光強化の取組

どのエリア間の観光客数を 増加させるのか?

来訪者動線を"見える化"し 誘客強化ポイントを探す

いつ観光客数を増加させるのか?

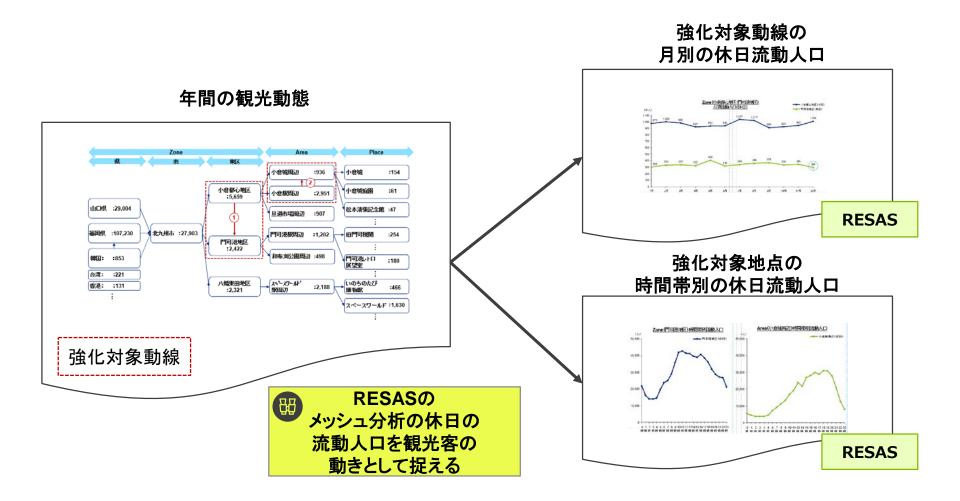
観光客が少ない季節・時間帯を明らかにする

地域資源を来訪目的とした誘客強化の方法とは?

"当たり前"の地域資源を "売り物"にする

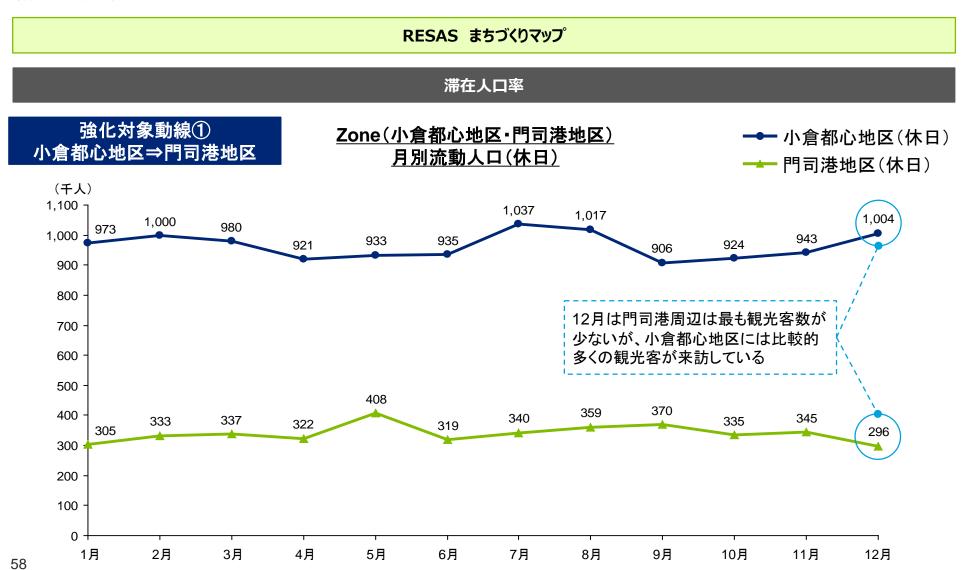
RESASのデータから、強化対象動線上の月別・時間帯別の流動人口の変更を見て、 誘客時期を設定

観光客の誘客時期の設定方法



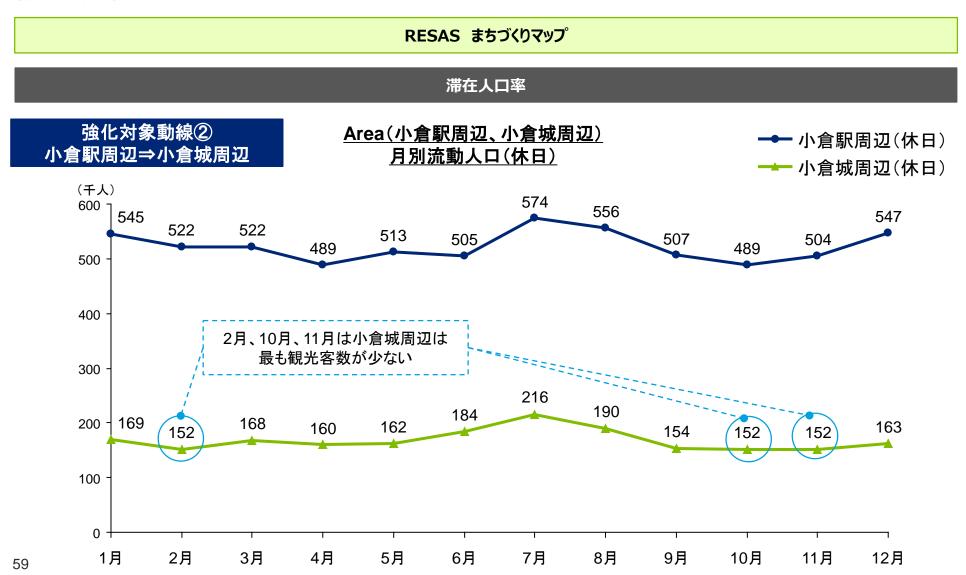
門司港地区においてもつとも観光客が少ない12月を対象と設定

誘客時期の設定



小倉城周辺におけるもつとも観光客が少ない2月、10月、11月に対象と設定

誘客時期の設定



流動人口が少ない門司港地区の夜間と小倉城周辺の昼間の時間帯を対象と設定

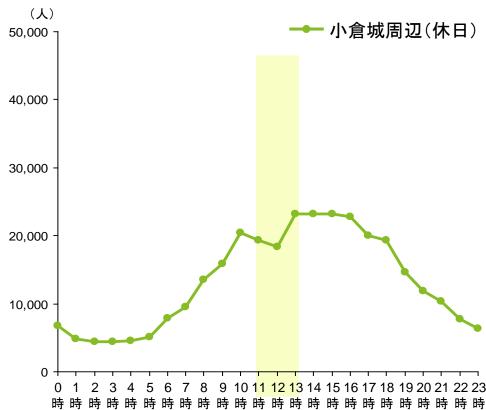
強化対象地点における時間帯別流動人口

RESAS まちづくりマップ

滞在人口率



Area(小倉城周辺)2016年2月時間帯別流動人口



夜の滞在人口が少ないことが、観光消費額の低位にとどめている原因と推測

(参考)北九州市の時間帯別観光客と観光消費の現状

外部公開情報

観光消費額の現状

【宿泊者数割合】

■ 北九州市の総観光客数に対する宿泊客割合は九州北部の主要観光都市に比べて低位に留まっている

市区町村	観光客数 (万人)	宿泊客数 (万人)	宿泊客数割合(%)
福岡県福岡市	1,855	580	31%
大分県別府市	879	255	29%
福岡県北九州市	1,170	170	15%

【1人あたり観光消費額】

■ 北九州市は、1人あたり観光消費額が九州北部の主要観光都 市に比べても低く、消費単価が高い宿泊客割合の低さが起因し ていると考えられる

市区町村	観光消費額額 (億円)	観光客数 (万人)	1人あたり 観光消費額 (円)
福岡県福岡市	3,773	1,855	20,340
大分県別府市	960	879	10,922
福岡県北九州市	1,067	1,170	9,126

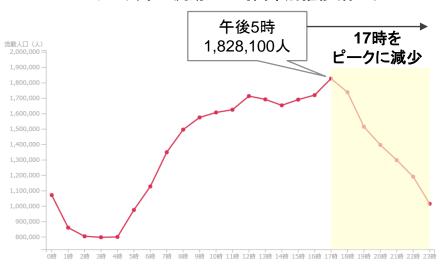
出典:福岡市「平成26年福岡市観光統計」 別府市「平成27年観光動態要覧」 北九州市「平成27年次観光動態調査」

RESAS 産業構造マップ 製造業の構造

北九州市の時間帯別観光客

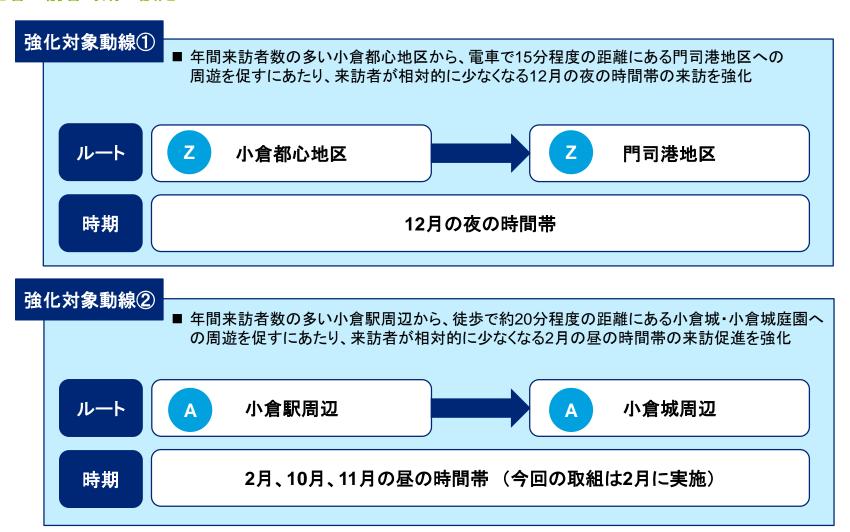
- RESASを活用して夜間の流動人口の動きをみると、 17時をピークに減少傾向となっている
- 北九州市は、H26年の観光振興プランにおいて、アクションプランの1つとして様々な地域の観光資源を組み合わせて「夜型観光」を磨き上げしていくことを盛り込んでおり、夜間に観光客を取り込むことを重要な取組として認識

北九州市の流動人口時間帯別推移(休日)



強化対象動線①は12月の夜の時間帯、強化対象動線②は2月の昼の時間帯を設定

観光客の誘客時期の設定



観光強化の取組

どのエリア間の観光客数を 増加させるのか?



いつ観光客数を増加させるのか?

*

地域資源を来訪目的とした 誘客強化の方法とは?

来訪者動線を"見える化"し 誘客強化ポイントを探す

観光客が少ない季節・時間帯を明らかにする

"当たり前"の地域資源を "売り物"にする

前章までで特定した2エリアで、"当たり前"に行われているイベントを来訪目的として、 過度な費用が不要なPR方法とアンケート調査を実施し、効果と課題を抽出

誘客強化の方法

目的

北九州市にある地域ならではの資源を観光資源としてPRし、エリア間の観光客数を増加させる

誘客エリア・時期

RESASを活用しながら、以下2つのエリアで来訪者が少ない時期に誘客をすることを決定

小倉都心地区⇔門司港地区 (12月の夜の時間帯に誘客)



小倉駅周辺⇔小倉城周辺 (2月の昼の時間帯に誘客)

PR方法の強化

誘客強化の方法

来訪目的の設定

【要件】

- 地域資源を観光資源化(市の観光課題)
- どの地方自治体でも取組可能(モデルの意義)



定期的・定常的な地域の「イベント」を活用 (観光資源をゼロベースで構築するのは長時間 を要するため、どこ地域にもあるものを活用)

【要件】

• 過大な投資をしなくとも、地域が自分たちの力でやりうるPR方法(モデルの意義)



無料のPR媒体の活用

(無料のWEB掲載・SNS発信・タウン誌掲載の 掲載範囲の拡大やちらし配布などの過大なコスト をかけないツールを上手く活用)

効果検証の方法

定量効果: 観光客数の増加

- エリア内の施設の入場者数
- エリア内の観光客数

定性効果:来訪した観光客の属性把握

アンケート調査結果



イベントの効果の検証を PR実施時に内包して実施

取組時期に開催されている地域ならではのイベントを対象に設定

(参考) PR強化の対象イベント

誘客先で誘客時期に開催される地域イベント

エリア(1)(誘客先:門司港地区)

門司レトロ浪漫灯彩(イルミネーション)

■期間:2016/11/19~2/19

■料金:無料

■ 人気度:福岡県内で人気No.1 (ジョルダン社HPより)

■ 主催者:門司港レトロ倶楽部







毎年恒例の行事として対象

門司レトロ クリスマスフィナーレ花火

■期間:2016/12/25 18:00-18:05

■料金:無料

■ 主催者:門司港レトロ倶楽部



動線上の回遊強化に向け地元が拠出可能な資金で急遽実施

エリア②(誘客先:小倉城周辺)

加冠の儀・三々九手挟式 (成人式+弓の儀式)

■期間:2017/2/26 12:00-14:00

■料金:無料

■ 主催者:小倉城指定管理者



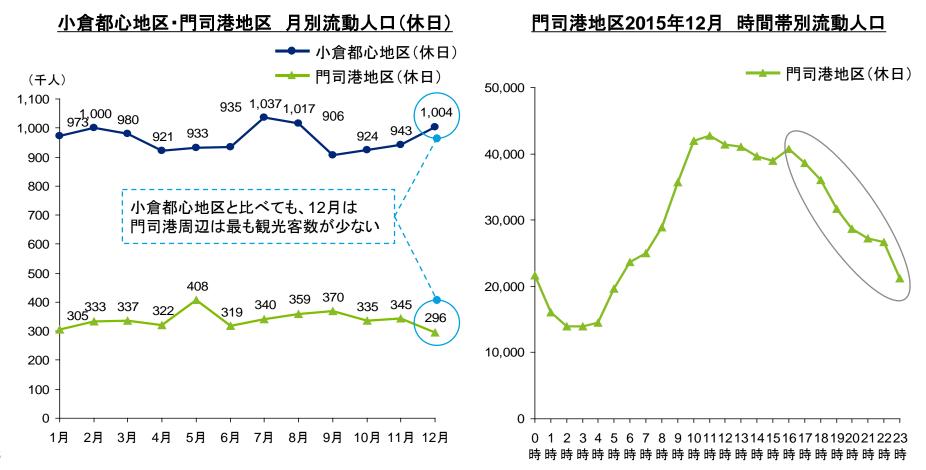
毎年恒例の行事として対象

【①門司港エリアにおける取組】 門司港エリアにおける冬かつ夜の時間帯は来訪者が少なくなる

門司エリアにおけるRESASを活用した課題把握

RESAS まちづくりマップ

滞在人口率



データ分析に基づき指定管理者や事業者が一体となって誘客強化施策を立案・実施

門司港レトロエリアにおける誘客強化の取組(一例)

冬(12月)の時期の来訪者・夜間滞在の向上に向け、 アジア来訪者の取り込みをはじめた各種誘客施策を地域一体となって実施

近年の取組(一例)

アジア来訪者の取り込み強化

- 北九州 韓国の国際線拡充を踏まえた韓国人旅行客向けのPR強化
- 台湾に対する営業強化(4年前から継続的に実施)
- 中国・台湾向けの多言語パンフレットによる受入環境強化



施設間・事業者間 連携による 回遊性の向上

- 宿泊施設と連携した展望室喫茶店無料券等による展望室への来訪強化
- 栄町銀店街との連携・PRによる回遊性の向上
- 下関市と連携した、人道を使った受け入れ環境のPR



集客イベントの実施・ PR実施

● 12月における門司レトロ倶楽部主催の新たな花火イベントの実施

福岡県を訪れる外国人観光客はアジアからの来訪者が多く、韓国人が7割を超え、2015年から2016年にかけて韓国人観光客数が2倍超増加

(参考)外国人訪問分析(1/2)

RESAS 観光マップ

外国人訪問分析

福岡県の国籍別訪問者数(2016年1-3月期)

国籍別訪問者数 表示年・四半期:2016年 1-3月期 指定地域:福岡県 訪日目的: 観光・レジャー目的 300,000 200,000 100,000 中華 ロ シ ア 英国 フランス イタリア フィリピン

福岡県の国籍別訪問者数の推移



※外国人訪問分析は都道府県単位のデータのため、福岡県で分析を行っている

福岡県を訪れる外国人観光客は韓国人を主としたアジアからの来訪者が多いのに対し、広島県を訪れる外国人観光客は様々な国からの来訪者が多いことが特徴

(参考)外国人訪問分析(2/2)

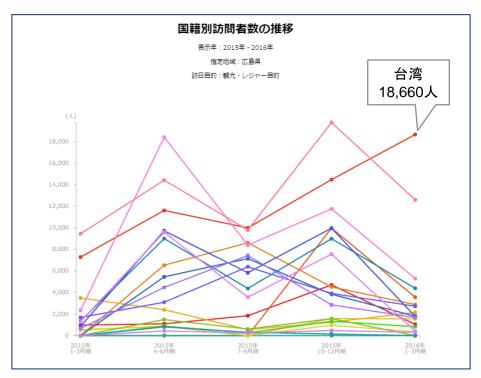
RESAS 観光マップ

外国人訪問分析

福岡県の国籍別訪問者数の推移

国籍別訪問者数の推移 表示年:2015年・2016年 指定地域:福岡県 大韓民国 訪日目的: 観光・レジャー目的 360,943人 300,000 大韓民国 168,623人 250,000 2015年 2015語 2015年 2015年

(参考)広島県の国籍別訪問者数の推移



※外国人訪問分析は都道府県単位のデータのため、福岡県で分析を行っている

花火が開催される時間帯である18時台の観光客数は通常に比べ約1,400人増加

(参考)門司港地区の時間帯別観光客数

外部公開情報(北九州観光動態調査)

RESAS まちづくりマップ 流動人口メッシュ

RESASを活用した時間帯別観光客数(推計)

門司港地区の12月の 1日平均観光客数 時間帯別の流動人口構成比 (RESAS流動人口メッシュ)

時間帯	観光客数	流動人口構成比
•	•	•
10時台	347	5.9%
11時台	353	6%
12時台	342	5.8%
13時台	340	5.8%
14時台	327	5.6%
15時台	322	5.5%
16時台	336	5.7%
17時台	319	5.4%
18時台	298	5.1%
19時台	262	4.5%
20時台	237	4%
•	:	•
0-24時の合計	5,866	100%

独自調査

通行量カウント

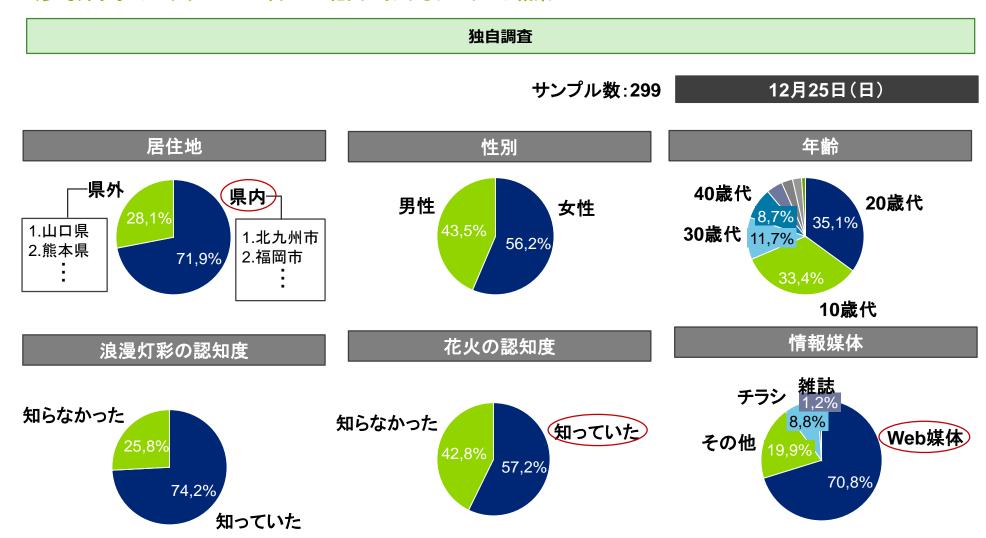
- イベント当日(12月25日)一日の通行人と観光客数
- 当日来訪者299名へのアンケート調査より、「来訪目的」 を「観光」と選んだ比率(83.3%)を乗じて観光客数を推計

時間帯	通行人	観光客
-	1	-
10時台	333	277
11時台	829	691
12時台	960	800
13時台	1,216	1,013
14時台	1,294	1,078
15時台	1,283	1,069
16時台	1,384	1,153
17時台	1,813	1,510
18時台	2,146	1,788
19時台	950	791
20時台	687	572
	•	
10-20時の合計	12,895	10,742

176,000人(12月の観光客数)÷30日=5,866

【①門司港エリアにおける取組】 来訪者は県内者が多く、イベントを事前に知っている来訪者が多かった

(参考)門司レトロクリスマスフィナーレ花火におけるアンケート結果



【①門司港エリアにおける取組】

高齢者層へのハード情報媒体の活用や、現地での周知等の可能性

展望室におけるアンケート調査結果

独自調査

アンケート結果

示唆

来訪者の 情報媒体

- 来訪者の5-7割が「WEB」を選んでいる
- 来訪者の2-3割が「その他」(口コミ)を選んでいる
- 来訪者の1割が「雑誌」を選んでいる
- ■「観光案内所」の活用は来訪者の1割にも満たない

能動的に情報を取りに行く 20代にはPR効果が高いため、 WEBや口コミを通じた 継続的な発信は重要

来訪者の 認知度

- イベントに対する県内者の認知度は高いが、県外者の認知度は低い (県外者は「来訪して偶然知る」ケースが多い)
- 昼間の時間帯の来訪者は、 イベントに対する認知度が低い

50代以上の年齢層は 情報取得に対して受動的だと 考えられるため、WEB以外の チャネル(市政情報など)の 活用が重要

来訪者の 年齢層

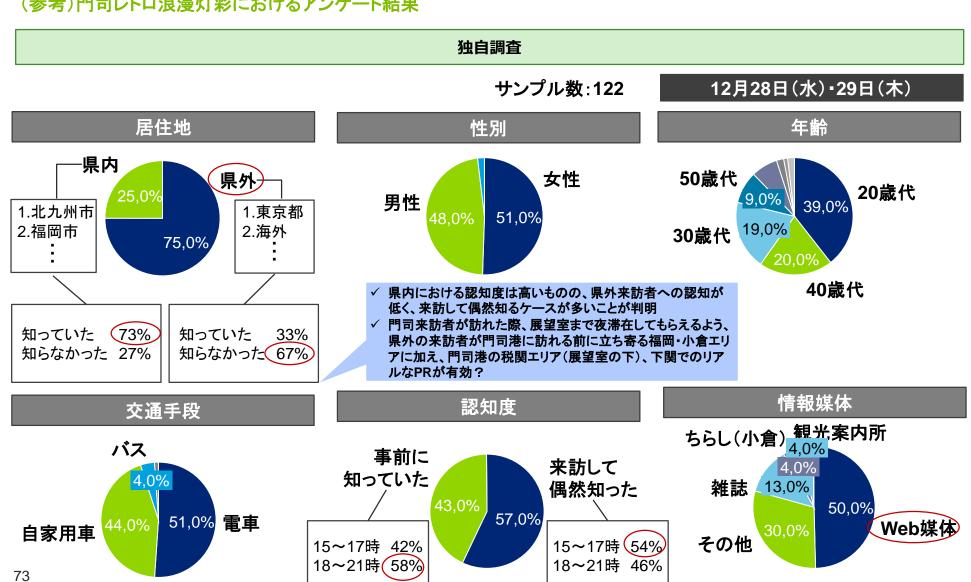
- 20代の来訪者が3割を占める (イルミイベントは、来訪者の4割が「20代」である、花 火イベントは、来訪者の3割が「10代」、3.5割が「20 代」)
- 50代以上の来訪者は1割にも満たない

現地における周知活動により (例えば看板を出すなど) 昼間のついで寄りの観光客の 滞在時間を延長させる 可能性有り

【①門司港エリアにおける取組】

PRした展望室における追加アンケートにより、PR策への示唆が見いだされた

(参考)門司レトロ浪漫灯彩におけるアンケート結果



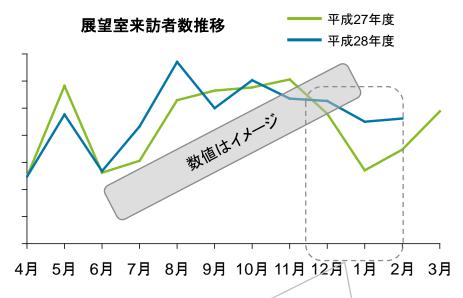
【①門司港エリアにおける取組】

施策の効果について、データを通した原因把握および今後の改善に活用

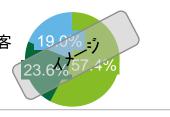
データを活用した原因分析・今後の施策立案

RESAS分析をきっかけとした収集データの重要性を認識し、来訪者増減の原因分析および今後の施策立案に活用している

■ 展望室の月別入場者数、団体利用者数(国別)を把握しており、 原因分析に役立てている



■ 新規就航に伴う団体旅行客 増分:XX%





• 来場者数の内訳となるデータを収集・分析しており、**来場者数の増減分析に役立てている**



門司港レトロ観光担当

- かつては日本人が多かったが、平日はすでに、アジア(韓国、中国)を中心とした海外からの来訪者の方が多くなってきている。
- 今後SNSやFree Wi-Fiスポット、多言語アプリの提供といった方策も考えられるが、整備にあたっての基礎材料となるデータが必要

「地域伝統文化イベントの誘客素材化」「周辺施設一体でのPRの有効性」を検証

PR強化の対象イベントと今回の誘客のポイント

PR強化の対象イベント

加冠の儀・三々九手挟式 (成人式+弓の儀式)

■期間:2017/2/26 12:00-14:00

■料金:無料

■ 主催者: 小倉城指定管理者



回遊性強化施策にあたってのポイント

ポイント①

地域の伝統文化継承を目的とした施設・イベントそのものを 誘客のための素材として明確に位置づけ

- 加冠の儀は、小笠原流の成人を祝う儀式、三々九手挟式は成人した元服 の女子の前途を祝し弓を放ち多幸を祈念する伝統儀式であり、伝統文化 の継承を目的とした厳粛な儀式
- 今回のPR強化施策では、これまで「観光資源として活用」したことがなく、 どの地域にも存在しうる伝統文化の継承儀式などの地域資源の活用について検証

ポイント②

知名度が高く、隣接している小倉城と一体的なPRを実施し、 観光客の回遊性を向上

■ 小倉城は知名度も高く、年間約15万人程度が訪れている一方、隣接している小倉城庭園は認知度も低く年間約6万人程度しか訪れていないため、小倉城周辺の観光施設を組み合わせた一体的なPRが必要

【②小倉城エリアにおける取組】 地域伝統文化の継承を目的とした城・庭園一体となり誘客を実施

(参考)当日の様子

- 来訪者の多い小倉駅周辺と小倉城前広場にてPRを実施
- 周辺施設(リバーウォーク)来訪者に対し、庭園前の参道で誘客 実施

■ 庭園前広場にて来訪者数をカウントし、アンケート実施









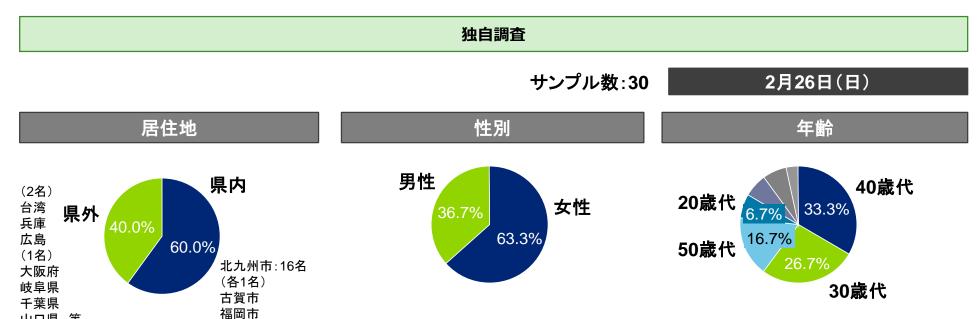






三々九手挟式の来場者数270名のうち30組に対しアンケートを実施

(参考)アンケート調査結果(1/3)



三々九手挟式(加冠の儀)の認知度

山口県 等

知っていた 20.0% 80.0% 知らなかった (来訪して偶然知った)

事前に知っていた人の情報媒体

計:6名

媒体	観光客数
56し (小倉城・庭園)	3名
ちらし (小倉駅)	1名
その他	2名

【②小倉城エリアにおける取組】 県外の来訪者は観光目的であり、電車を使って来訪している

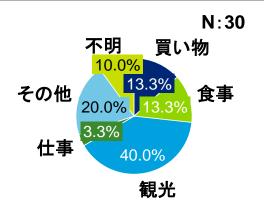
(参考)アンケート調査結果(2/3)

独自調査

サンプル数:30

2月26日(日)

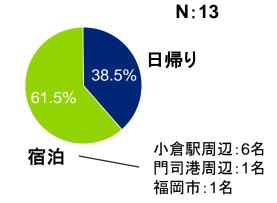
来訪目的



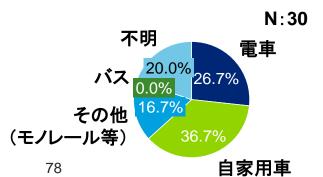
観光地

観光地	観光客数
小倉城	5名
小倉城庭園	4名
リバーウォーク (高倉健展含む)	3名
TOTOミュージアム 唐津 門司港	1名

宿泊



交通手段



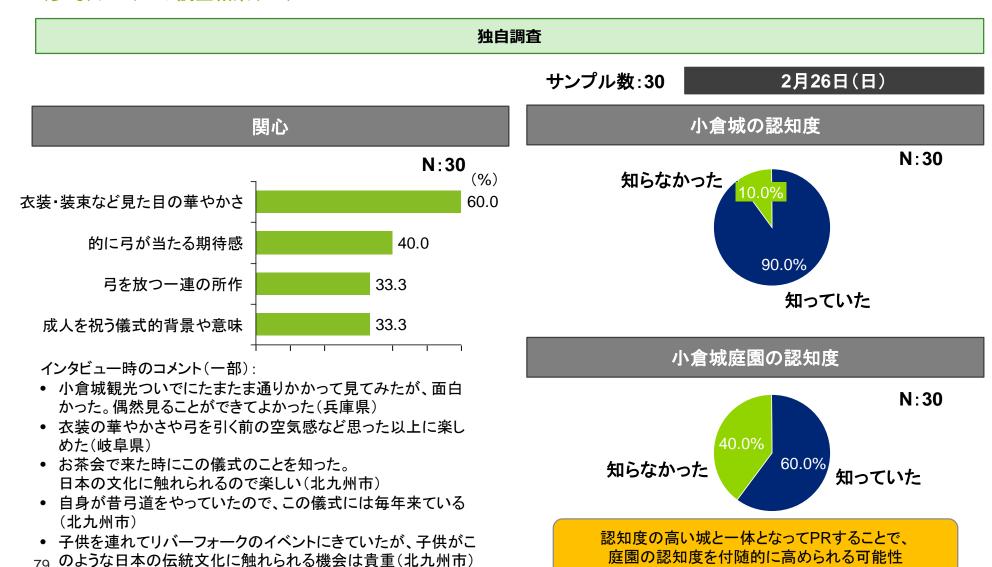
道順のわかりやすさ

N:18

媒体	観光客数
わかりやすかった	16名
わかりにくかった	2名

【②小倉城エリアにおける取組】 儀式における見た目の華やかさや的にあたる期待感などに関心を有している

(参考)アンケート調査結果(3/3)



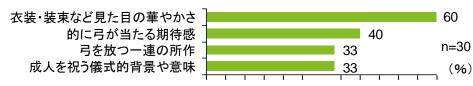
地域の伝統儀式を誘客素材として位置付けることの可能性が見出された

小倉城エリアにおける誘客方法と現在確認されている効果

定量的効果

■ 例年の来訪者数100名程度(※施設管理者の実感値)に対し、270名(13:00~14:00)

回遊性強化仮説に対する 検証結果 (現時点) 地域の伝統文化が 誘客素材として 活用可能か ■ 来訪者アンケートにおいて、「イベントの衣装・装飾などの見た目の華やかさ」や、 「的に弓が当たる期待感」など、参加者における満足度が得られたことが分かった



地域の伝統文化継承のための儀式でも来訪者の興味を満たす誘客素材となりうる

小倉城周辺一体でのPRは回遊性強化につながるか

- 小倉城や周辺施設(リバーウォーク)の来訪者が多く庭園イベントにも参加
 - ✓ 小倉城の認知度(来訪者含む)90%に対し、小倉城庭園の認知度は58%程度
 - ✓ 周辺施設(リバーウォーク等)への来訪者も一定数存在
 - ✓「来訪して偶然知った」人が8割を占め、「事前に知っていた人」は、配布周辺したちらしや市政情報などハードの情報媒体により来訪

小倉城というコア誘客装置や他の周辺施設と一体となった 現地でのPRが回遊性を高める上で有効

今後に向けた示唆 (振り返り)

■ 伝統文化の体験機会を通したさらなる誘客や消費額の向上を促す仕掛けができる可能性 (ex. 的当て体験、弓手との写真撮影、飲食販売等)

戦略的な施策立案に向けたデータの重要性、地域素材の磨きあげの重要性を認識

施策後の振り返り







小倉城庭園 指定管理者

- 伝統文化の儀式が、観光客目線で見て素材となる可能性があることがわかった
- 厳粛な儀式であるため、写真撮影がしにくい雰囲気があるが、弓手と一緒に写真を 撮ってあげるコーディネーター役を置いたり、儀式そのものは13:00~14:00の限られ た時間だが、午前中のリハーサルや、夕方にもう一度行うなど**工夫次第でより来訪者** との接点を多くし、滞在時間を長くできる可能性がある。
- また、小倉城と連携して家族向けに弓の体験イベントを実施することで、**周辺一帯での** 回遊性向上にもつながりうる



北九州市 観光課

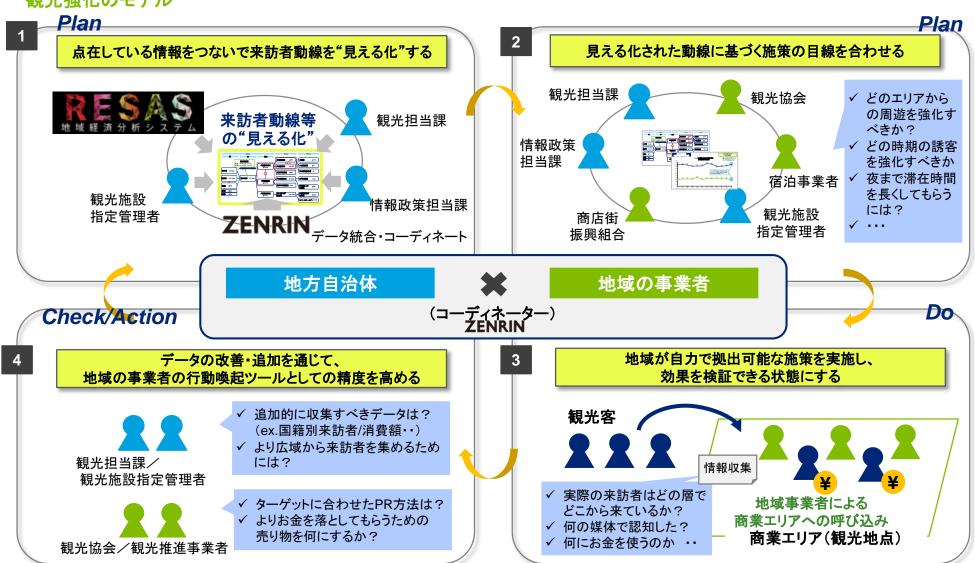
- 誘客強化のためには、**地域にある素材を磨き上げることが必要**だとわかった。
- 観光原資は限られているため、ある程度は選択と集中が必要になってくる。 その中でも**小倉城は、重点投資すべき観光資源の一つと考えており、核をつくって周** 辺に広げる取組が有効ではないか。
- 戦略的に観光政策をうつためには、対外的に説明しうるためのデータが必要であり、 データに基づく施策検討には意味がある。
- 外国人の個人客については、まだ動きが把握しきれていないため、今後の調査課題だと考えている。

北九州市におけるRESASを活用した観光強化の取組

RESASの活用を通じて見えてくる北九州市の現状と観光への着眼 Part1 Part2 北九州市の観光における取組の現状 北九州市におけるRESASを活用した観光強化の取組 Part3 Part4 地域の事業者と一体となった取組に仕立てていくためのポイント

データの"見える化"により、関係者が同一基準のもと現状認識を共有し協働する

観光強化のモデル



年間の来訪者数の把握を通じて、動線上の観光客の取りこぼしを"見える化"

"見える化"した観光動線 (千人) **Zone** Area **Place** 県 市 地区 小倉城周辺 小倉城 :936 :154 観光消費額 宿泊:16,991円(14.5%) 日帰り:4,163円(85.5%) 小倉都心地区 小倉城庭園 :61 小倉駅周辺 : 2,951 :5,659 (): 来訪者数における構成比 山口県 :29,004 松本清張記念館:47 旦過市場周辺 :907 |福岡県 :107,230 北九州市 :27,903 門司港駅周辺 :1,202 旧門司税関 :254 門司港地区 :2.422 和布刈公園周辺:498 韓国: :853 門司港レトロ :180 展望室 台湾: :221 八幡東田地区 スペースワールト いのちのたび 香港: :131 :2,188 :466 駅周辺 博物館 :2.321 スペースワールド:1,630 【観光動線の強化対象設定の考え方】 ■ エリア間のギャップが明らかであり、対象観光客数の取りこぼしが見られる動線を強化対象とする ■ 北九州地が政策的に強化したい観光地点間における周遊・観光動線を強化対象とする